

JARO XIII

N-RO 4

エスペラント研究雑誌

APRIL O

1932

LA REVUO ORIENTA



JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

LA REVUO ORIENTA



目 次

日 支 紛 争 に 際 し て.....	川 村 六 郎.....	121
譯 歌「紅 屋 の 娘」.....	穴 戸 圭 一.....	122
檢 察 官 (註 譯).....	小 坂 狷 二.....	124
Esp. 研究における新しい原則.....	高 木 弘.....	126
Parolla Metodo の 話.....	岩 下 順 太 郎.....	129
再 歸 代 名 詞 を 中 心 と し て.....	高 橋 運.....	132
作 文 添 削.....	大 橋 介 二 郎.....	133
質 疑 應 答.....	小 坂 狷 二.....	136
日 本 Esp. 運 動 の 現 況.....	川 崎 直 一.....	137
日 本 Esp. 運 動 の 組 織 化.....	金 子 美 雄.....	138
新 刊 紹 介.....		140
荒 野 (翻譯小説).....	南 昌 世.....	143
Stranga Agentejo (詩).....	穴 戸 圭 一.....	147
海 外 報 道.....	宗 近 眞 澄.....	148
内 地 報 道.....	露 木 清 彦.....	150
初 等 讀 み 物.....	小 野 田 幸 雄.....	155
比 較.....	小 此 木 貞 次 郎.....	157
發 音 の 指 南.....	小 坂 狷 二.....	159
諺 の 研 究.....	同.....	160

表紙カッ ト 露 木 清 彦

其他カッ ト 青 島 友 美

★ 常設初等講習 ★

開 講 四月、七月、九月、一月
期 間 二ヶ月
時 日 毎週 月、木 兩日午後七時
より二時間宛
月 謝 全期二圓前納
場 所 當學會事務所階上に於て
初等修了後希望により補習、中等科開設

★ 例會・研究會 ★

毎週水曜 19 時より

(年中無休・會費不要)

19 時 20 分より 21 時迄.....輪講

用書: ザメンホフ讀本

21 時より.....茶話會

輪講中細密な語法の講義、茶話會では唱歌の練習あり、毎回出席者多數愉快な會合で非常に爲めになります。出席歡迎。

日支紛争に際して

醫學博士 川村六郎

わが國は、今や對支紛争に關し、重大な國難に際會してゐるが、この難局に當つて全國民は一致團結し、戰場にあると家郷にあるを問はず、到るところ愛國の誠心に燃えてゐる。この時に際し、國際聯盟に正しき認識を與へ、その正義に訴へることは急務中の急務である。

しかるに、支那國民が、先天性の語學的才能と傳統的宣傳上手により、盛んに國際間の宣傳に努めた結果、東洋と接觸少く、その事情に疎い小國側の同情を得、ひいては、唯さへ認識不足な外人をして、わが國を誤解せしめるに至つてゐる。この時に當つて、わがエス語の力を以つて、わが國の立場を明かにし、正義人道に基づく傳統的日本精神を、これらの外人間に吹聴説明することは、唯に、われわれ日本人としての義務であるにとどまらず、これこそザメンホフ博士のホマラニスモ精神にも一致する所以である。

しかるに、先には、ぬかりなき支那各地のエス團體が虚報的マニフェストを送り、各國のサミデアーノに訴へたは周知の如くであるにもかかはらず、わが國のエス團體にかかる企てなく、拱手傍觀してゐるのは筆者の甚だ遺憾とするところである。

エス團體中にはセンナチウーロも少なくなく、そのため、エス團體そのものが常にある一部の人士から疑惑の眼を以つて見られるくらゐであるのは事實であるが、それらは唯思想の相違のみで、この國難に際しては、祖國愛に燃えないものは、國民中一人もないであらうと信じる。殊に平素、ともすれば警察當局などから白眼視せられるエスペランチストとしては、特に意を注ぎ、われ等も亦、日本人として愛國的精神を持つことにおいて、敢て人後に落ちざるものであることを、事實によつて示すに恰度の時機であると信じる。日本エスペラント學會の有力者中に、いまだ何等の企劃なきを見て、甚だ疑惑に堪えず、茲に一文を草した次第である。

萬一エス團體においてかかる企ての全然なきならば、われ等は、エス語を目するに無用有害なる閑文字なりとの非難を是認せざるを得ない。しかして、筆者は遺憾ながら、斷然、エス語の研究を廢し、進んでは、今後、機に際し、エス語の普及を阻止するに努力する覺悟である。

敢て同志諸氏の憂國の赤心に訴へ、その高見を仰ぐ次第である。

譯歌「紅屋の娘」

尖 戸 圭 一

カロチャイと二人で、現エスペラント文壇の最上位を占めてゐる „Literatura Mondo“ の主筆、エスペラント原作小説界に於て、異論なしに第一人者である Julio Baghy (バギーと讀むとはやはり藤澤先生のお教へ)。彼は大戰當時、囚れの身としてシベリヤの曠野に流離ひ、後日本軍に救はれてヴラヂボストクより上船、印度洋を通つて歸國した。途中日本にも立寄つたが(但し上陸せず)、このあたりの消息が Revuo Orienta (1, 98, 101, [1920]; 2, 8 [1921]) にも出てゐることを知つてゐる人は少なからう。捕虜、流浪の生活が „Preter la Vivo“ となり „Viktimoj“ (梗概は R. O., 10, 210 [1929] にある。主人公の名 Johano Bardy は何を意味してゐることか!! 尙續編 „Infero“ が又近く出版される) となり、尙續々出、又出るであらう彼の多くの作品に影響してゐることは、何人も認める處であるが、彼の作品はそのほかに、常に neologismo を伴ふことを例としてゐる。本論及び餘談に急ぐ爲、序言はこれ位で止めると、ruĵo も亦彼が新著 „Hura“ に用ひてゐる新語の一つである。Moderna, ŝika はもう古いとおつしやる彼女氏等の、やれコテイだ、どこだと騒ぐ「ルージュ」即ちこれである。フランス語の rouge (g と書いてあるがフランス語では ĵ の發音をすることに注目あれ。) であつて紅(紅)のことであると一言あまり ŝika りしない彼氏等の爲辯じておく。尤も中には

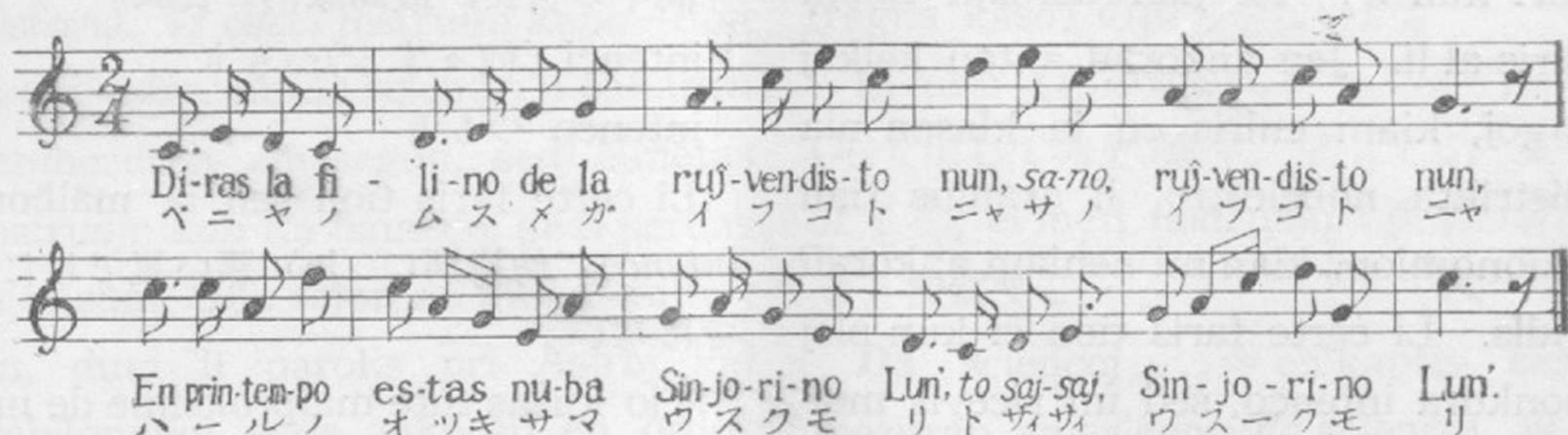
— Kie? Sur la frunto? …… Ne, tio ne estas sango. La postsigno de

ruĵumitaj lipoj! …… („Hura“ p.166) となつてゐる。

今日大多數の日本人は、日本語に於て ĝ と ĵ の區別をしないから、一寸注意しないとよく混同するが、云ふまでもなく ĝ は爆裂音、ĵ は摩擦音であるから、ĵ は ĝ に比し遙かに優美にやさしく聞える。革命を象徴する ruĝ' と、女性の化粧料 ruĵ' とを、斯くの如く音聲上からも區別した處など、流石は詩人バギーであると感心せざるを得ぬ。然し ruĝ' には ri-fuĝ', juĝ', muĝ' の三つの韻があるに反し、ruĵ' には一つもない。こゝでかカロチャイ氏の提案(前號 „adasismo“ の項参照)に従つて、Rimoido (rim'oido) を選ばなければならぬ。Parenkrimo は uŝ である。(ŝ の濁音が ĵ である。先年 Scherer 君が „ĵurnalisto“ を「シユルナリスト」と聞える様に發音したのもこのためである。) ある! ある!! 最も適當なのが „buŝo“。 „ruĵo-buŝo“、早く使つてしまはないと „ŝima prarimoido“ となること受合ひのもの、それでこれを用ひて、「東京行進曲」のレコードの裏にあつたが故に、斯くまで全國に擴がつた「紅屋の娘」を譯すると次の通り。勿論之はイタヅラに作つた戲譯、詩にも何にもなつてはをらぬ、唯々揚音は一致させたから、譜に合はせて歌へると云ふだけ。然し揚音すら合つてゐない譯歌(UEA Jarlibro, lok. cit. に依ると之を pseŭdo-versaĵo と云ふ。エスペラントの基本文法第十條を變更しない限り、原譜では歌へない。)が堂々と某誌に出ると云ふ程、日本の歌の翻譯は、既に „adas-ismo“

の項でうまく辯解しておいた様に、六ヶしいのであるから、文藝は何も知らぬ筆者が一晩でデッチ上げたものが意味すら殆ど通じないのは當然のこと故一と先づお許しを願つて、諸兄の御訂正を得て歌らしくしたいと思つてゐる。

附記：京都の bonhumoraj samideanoj 連がイタヅラにもものした譯歌が少したまりました。勿論韻も踏んでないものが大部分ですが諸兄の御繰譯又は御存知のものと交換致したく思つてをります。宛名：京都市寺町夷川カニヤ書店内帝大エス會。



紅屋の娘

野口雨情作歌
中山晋平作曲

- 1) 紅屋の娘の云ふことにや、
(サノ) 云ふことにや、
春のお月様 薄曇り、
(トサイサイ) 薄曇り。
- 2) お顔に薄紅つけたとき、
(サノ) つけたとき、
私も薄紅 つけよかな、
(トサイサイ) つけよかな。
- 3) 今宵もお月様 空の上、
(サノ) 空の上、
一はけさらりと染めたとき、
(トサイサイ) 染めたとき。
- 4) 私も一はけ 染めるから、
(サノ) 染めるから、
たもとの薄紅 下さいな、
(トサイサイ) 下さいな。

La Filino de la Ruĵvendisto

Kanto de Ujo Noguči.

Muziko de Ŝmpei Nakajama.

- 1) Diras la filino de la ruĵvendisto
nun, (sano), ruĵvendisto nun,
En printempo estas nuba Sinjo-
rino Lun', (to saĵsaĵ) Sinjorino Lun'.
- 2) La vizaĝon belan ŝmiris eble ŝi
per ruĵ, (sano), eble ŝi per ruĵ'.
Ankaŭ mi min volas ŝminki je
vizaĝ' kaj buŝ', (to saĵsaĵ), je vizaĝ'
kaj buŝ'.
- 3) Ankaŭ tiun ĉi vesperon Luna
Sinjorin', (sano), Luna Sinjorin',
Kun vizaĝo la ŝminkita sidas je
kulmin', (to saĵsaĵ) sidas je kulmin'.
- 4) Do nun mi min volas ŝminki je
vizaĝ' per broŝ', (sano), je vizaĝ'
per broŝ',
Petas mi vin doni al mi ruĵon el
la poŝ', (to saĵsaĵ) ruĵon el la poŝ'.

下手な譯であるから説明を要する。

ŝminki はやはりバギーが „Hura“ に初めて用いた新語、ドイツ語の schminken より來たもの。化粧すること。„Hura“ の次ぎの作 „Printempo en la aŭtuno“ に於ては第一頁から平氣で使はれてゐます。vizaĝ' にぬる紅と buŝ' にぬる紅とは違ひますワなどと言はないで下さい。その爲の ŝminki なんですから。

broŝ' は多分 broj' の preseraro でせう。但しこんな「強制誤植」は私の發明ではないのです。Heroldo de Esperanto 1930 年(日附からして 1929 年と誤植されてゐることに注意!)の第 1 號 7 頁の Ride Mulo 君の詩を見て下さい。尤も Parist-Cart の Rimaro には broŝ' もあるのですがネ。S-ro Vortaro は之を „preserarismo“ と命名して „ada ismo“ の仇(あ)を討ちました。

官 察 検

Zamenhof 譯 La Revizoro 一節の註譯

K. Ossaka.

Lukiĉ.—Kion do, konsilu, mi povas fari kun li? Mi jam kelkajn fojojn diris al li. Jen ankoraŭ antaŭ kelkaj tagoj, kiam eniris en la klason nia distrikta nobelestro, li aranĝis tian fizionomion, kian mi neniam ankoraŭ vidis. Li certe faris tion ĉi kun plej bonkora intenco, sed mi ricevis mallaŭdon: kial liberpensaj ideoj estas inspirataj al la junularo.

Lukiĉ.—一體奴をどうすれば (kion mi povas fari kun) よいのですか (konsilu)? もう何度も先生に云ふたです。それ、つい此の間も (ankoraŭ antaŭ kelkaj tagoj), 教室へ當地方の貴族團長が入つて來られた時今迄に見たこともないやうな顔付を先生やらかしたです。先生勿論 (certe) 大にお愛想(よい氣)のつもりでやつたのでせうが、私は叱られたです (ricevis mallaŭdon) 『どうして自由思想が青年共に波及しとるんぢやろ』つてね。

Fari ion kun (誰と何々をする, 即ち)誰それを(どう)扱ふ。類例:

Mi ne scias, kion vi volas (=volas fari) kun via Snitchy. (BV 30)

S.をどうしようと云ふおつもりだか私にはわからぬ。此の kun の用法:

Kiu ludas kun koto, malpurigas la manojn. 泥をもて遊ぶ (ludi kun) 者は手をよごす(朱に交れば赤くなる)。

Estu singarda kun la fajro. (M 13)

火の用心をしなさい (火を取扱ふには kun 用心せよ)。

Distrikta nobel'estro その地方の貴族仲間中の首長, 最高家柄の貴族。

[intenci (何々する)つもり

intenco つもり

Li certe faris tion sen ia malbona intenco. 勿論別に (ia) 悪い氣でしたのではない。

Tio kuŝas tute malproksime de mia intenco. そんなことをするつもりでは毛頭ありません。

[fari mallaŭdon=mallaŭdi

ricevi mallaŭdon=esti mallaŭdata

Ricevi の用法二三:

La knabo ricevis malbonajn manierojn. 子供に悪い癖がついた。

En la varmaj landoj la suno radias alian varmegon ol ĉe ni. La homoj ricevas koloron malluman. (F II 133)

暑い國では太陽の光は我々の國とはまるで違ふ。人は色が黒くなる。

Nun li estis riĉa kaj ricevis multe da amikoj (FI 4). 金があるので友人が多勢出來た。

La arbo ricevis radikojn kaj radiketojn. 大小の根が生えた。

Ni poste ricevis nian unuan knabon. (F II 79) 其後長男をもうけた。

Dank' al la neforgesebla granda merito de Schleyer nia ideo ricevis sian unuan disvolviĝon. (OV 334)

Sch. 師の忘る可からざる大價值のお蔭で吾が思想は初めて進展を見た。

Vidu, nun tiu ricevis promocion. (F II 85) 見ろ, あいつは昇進した。

La kandelingo *ricevis lokon* (=estis lokita) sur verda skribtablo. (F II 122)

蠟燭立ては机の上にのせられてゐた。

Urbestro.—Ankaŭ mi devas rimarkigi vin pri la instruisto en la parto historia. Li estas instruita kapo—tion ĉi oni vidas, kaj da sciencoj li enkaptis senmezuran amasegon, sed elmetas instruojn kun tia flameco, ke li perdus la kapon. Unu fojon mi lin aŭskultis: nu, dum li parolis pri Asiroj kaj Babilonanoj, estis ankoraŭ en ordo; sed, kiam li atingis Aleksandron la Macedonan, mi jam ne povas diri al vi, kio kun li fariĝis. Mi pensis, ke brulas, mi ĵuras al vi. Li dekuris de la katedro kaj per siaj tutaj fortoj li ĵetegis la seĝon sur la plankon! Sen-dube, Aleksandro la Macedona estis heroo, sed por kio rompi seĝojn? Ĝi estas malprofito por la regna kaso.

市長——も一つ (ankaŭ) 君に注意しとかにやならんのはあの歴史科の教師さ。先生學問のある頭腦ぢやらう——そりやわかつとる (oni vidas), 學問は限りもなくつめこんどるぢやる (en'kaptis), が教授に當ると (el'metas instruojn) まるで夢中になつてしまつて (kun tia flam'eco) 折角の頭を (la kapon) 失つてしまふぢや。一度先生の講義を (lin) 聞いたがね, その, アシリヤ人やバビロン人の話をしてゐる間はまだよかつた (秩序に於てあつた), 處がマセドンのアレキサンダーの處になると, 先生どうなつたか (何が彼と起つたか) どころの騒ぎぢやない (私は云ふ事も出来ぬ)。わしは火事かと思つたよ, 全くね (mi ĵuras al

vi). 先生教壇から馳け下りて力一杯 (per siaj tutaj fortoj) 床の上へ椅子を叩きつけたもんだ。成程 (sen'dube) マセドンのアレキサンドルは英雄だらうさ, けど何だつて椅子をこはすんだい, 國庫 (regna kaso) の損ぢやないか。

El'meti (物の中から外へ) 取り出す, (取り出して物を) 曝す, 呈示する, 並べ立てる。el'meti instruojn (課業の店開き) 授業する。

Da sciencoj = en'kaptis sen'mezuran amas'egon da sciencoj. 測り知れぬ程澤山學問を頭につかみ込む。數量の語と da とが此の如く離されて用ひらるゝこともあり:

Ĉio, kion Parizo havis en si da brilo kaj beleco, devis hodiaŭ sin kolekti en la opero. (FK 143) 巴里の中にあるありとあらゆる輝きと美は今日オペラ座に集まつた筈である。

Li tamen uzis da ili multe kaj multe. (EK 260) 彼は然し其等を盛んに用ひたのであつた。

Da „internacia“ ili havas en si nenion. (FK 243) 『國際的』と云ふ點は何もふくんで居らぬ。

Sed ni ja scias, ke da lingvoj ekzistas tre multe. (FK 281) 然し言語なるものは甚だ多くあると云ふ事を吾々は知つて居る。

Flamo 焰; flam'eco (焰のやうに) カツとのぼせあがる事。

Perdi la kapon 正氣を失つて馬鹿な事をする, 氣が狂ふ; perdi la koron 落膽する。

Aleksandro la Macedona アレキサンダー大王。

Esp. 研究における新しい原則

高 木 弘

最近日本の esp. 界において esp. そのものの種々な方面からの研究がかなり盛になつて來た。今までの單に學習、教授等の便宜のための esp. の研究が次第に發展して、esp. 理論の確立のために行われるようになって來た。研究者自身に組織的な esp. 理論の確立がそんなにハッキリと意識に上せられていないのかも知れないが、とにかく „esperantologio“ とゆう neologismo もさして耳ざわりでなくなつたほど多くの人に語られ、また esp. に関するまとまつた體系的研究の少くとも基ソ工事が行われ始めたように見える。

„Esperantologio“ とゆう雑誌が発行され、Zamenhof-Instituto が出來、毎年の大會でわ esperantologio の分科會が持たれる盛況ぶりである。Esp. 雑誌も従つて種々なその方面の研究お載せ、新しい用語の選定や、關係詞の新定議や、Zamenhof における語句の調査やが繼續的に發表されている。

かうゆう esp. 研究の活動が日本で活發に行われだしたことわ、いろいろな點から意義がある。今まで、また現在でも、東洋——特に日本の esp-isto わ esp. の研究に對して非常に modesta すぎるとヨーロッパの e p-isto に言われているほど消極的で不活發であつた。これわヨーロッパ人と日本人との esp. に對する言語上の大きな開きによるものである。Esp. わインド・ヨーロッパ語に基ソお置いた言葉であり、日本語わインド・ヨーロッパ語とわ非常に違つた言語系統に屬している。もつとも esp. の持つ付着語的性質、語尾變化の一定、接語の活用等わ日本語の言語的特質の一つでわあるが、esp. と日本語の語い表現様式に非常なへだたりのあることわ日本語お話す日本人が esp. お學びとるのにかなりの勞力お必要とする、しかしそれと同時に、即ち學びにくいとゆう理由から、日本の esp-isto わ esp. に對して語學的に非常に嚴密である。

僅か數週間で e p. おものにすることのできるヨーロッパ人わ e p. お自分の話す言葉とあまり關連させて習得するため、esp. の論理お無視することがしばしばであり、かなり大膽に esp. に lingva naciismo お持ち込んてくる。ところが、それと反對に日本人わインテリでも esp. おものにするのにわ長い間、いろいろな努力お拂わなければならない。日本

人にとつて esp. わ日本語とわ全然違つた種類の言葉である。しかもその學習される esp. が日常の生活の言葉としてでわなく、主として目で讀む言葉として習得されるために、日本の esp-isto わ esp. に對して非常に批判的である。

かうゆう言語的な必然性から日本の esp-isto わ e p. の改良とか novismo の提案に對して極度にまで神經的に反對する。即ち esp. の古い傳統——Fundamentismo の最もすぐれた力ある防衛者として、Bulonjo の第1回萬國エスペラント大會で „netuŝebla“ と宣言された „Fundamento“ お忠實に守つていたのである。Esp. 運動初期に esp. 界お混亂せしめた Bofron の Ido 運動（理想主義 esp-isto わこれお『謀叛』と呼んでいる）の示したよい教訓お生まましく受取つた初期の日本の esp-isto わ Kar (Cart) と共に最も勇敢に esp. の統一性お強調した。事實、この Ido 運動後における Fundamentismo の發展わ國際語として esp. が發展して行く上に正に取らるべき最も正しい道であつた。社會的集團的創造によつて發展すべき國際語としての esp. の地位お防衛すべき唯一の手段であつた。

しかし日本におけるこの Fundamentismo の發展わもう一つの力強い faktoro お持つていた。即ちそれわ Zamenhof の homaronismo えの共鳴である。純粹な言語的見地からでわなく、Zamenhof の唱えた理想主義えの信仰から來た Fundamentismo のヨ一護である。

この Fundamentismo わヨーロッパのブルヂョア esp. 運動にあつてわ純粹の實用主義と對立し、esp-ismo の流に立つ人々の指導的精神となつてゐる。しかしそれわ日本におけるような傳統的な一般的なものでわない。言語的特殊地位と傳統的な、次第にその影響力お失つて行きつゝある人類人主義とによつて、日本における Fundamentismo わ Zamenhof の規定した 16 カ條の文法法則と 800 の語い（プラス Lingva komitato の補助公用語）の保持お意味するばかりでなく、更に Zamenhof のすべての lingvaĵo お絶對視する Zamenhofi mo (lingva) と同意語にまでなつてゐる。

Esp. の創始者である Z. の e p. わ最もよい、標準的な esp. であり、彼の注意の行と

どいたよい esp. わわれわれの手本として常に研究お怠つてわならないものである。思うところお最も簡明に、論理的に表現した Z. わたしかに人間としての最もすぐれた言葉の使い手であろう。原作に、ほん譯に、實に周到にハッキリと表現された彼の esp. わ長くわれわれの esprimo の、stilo のモデルとしてその價值お失わないであろう。彼の一つ一つの單語の使い方、文法法則の扱い方わ限りなくわれわれの研究實用の指針となつてゐるであらう。だが、われわれわ Z. によつて示された esp. お、その法則おいつまでも絶對視し、偶像視してゐてわならない。Z. が半世紀前に國際語の新しい原則として定めた道から一步もふみ出すまいとする固定的な保守的な態度に止まつてゐてわならない。

Esp. が發表されて次第にその力お社會的に大きくして行くや、個人的な動機から esp. お改良しようとする傾向がだんだん強くなつて行つた。Z. 自身も當時唯一の雑誌 „La Esp-isto“ のパトロン、Trompeter に脅迫(?)されて、改良案お作つたほどであつた。かつてわ Volapuk お滅した大きな力の一つであつた改良運動わ Bof on, Kutjura らの出現によつて、その絶頂に達し、當時の e p. 運動わ分裂して Ido 運動お派生せしめ e p. 運動の將來わ暗たんたる黒雲にスツカリおゑられてしまつた。しかし esp. 運動わ忠實な fundamentisto や praktikisto の力によつてこの個人主義的改良運動による危機から脱することができた。Esp-Akademio の前院長 Kar (Cart) の „Fosu nian sulkon“ のスローガンわ當時の忠實な fundamentisto の歴史的な叫びであつた。

かくして esp. の統一お守る fundamentismo わ多くの esp-isto-aktivulo によつて長くその指導精神とされたのであつた。Esp. が現在におけるように社會的に動かない根底お持ち得た前までわ、改良修正による言語的不統一のため、社會的實用の可能性から遠ざかり、運動全體お混亂壊滅にみちびく機會が多かつた。従つて Fundamento に立てこもつて、ひたすらその lingva unueco お保持した Fund-ismo わ實に歴史的な必然的なものであつた。要約された不可變(相對的に)の法則の上にたつてこそ、國際語のヨリ以上の發展わ約束されたのである。この意味で、Fund-ismo——さらに擴大フェンされた形での Zamenhof-ismo——わ e p. の今日の發展お道びくに最も大きな意義お持つた原則であつた。Esp.

お現在のような豊富な、統一的な國際補助語とする最大の要因であつた。この F-ismo の歴史的な役割わ esp. の發展お考える時に決して忘れられてわならないものである。だが、だからと言つて、それお過重に評價し、さらに絶對不變の原則と見なし、その歴史的な役割お無視してわならない。

だが、われわれわこの esp. に非常な大きな寄與おなした F-ismo-Z-ismo わその歴史的役割お終えたのだと考える。F-ismo わ esp. 運動(言語上での)の指道精神としての意義お失つたのだと結論する。でわ、どんな理由によつて、そう言うのか? と言へば、esp. 運動わ今までに見ない新しい飛躍的發展の時期に入つたからである。でわ、何が新しい時期か?

大戰後、esp. 運動わ2分され、階級的對立が行われ、esp. わ新しい社會的分野に組織的に實用され始めた。その組織者わ SAT であつた。しかし社會的情勢の急激の發展わ SAT の如き非組織的な組織お持つた國際團體によつてわ到底その esp. は階級的利益のための實用の効果おあげることわ不可能なことが強く感じられた。そして 1930 年にすでに esp. の階級的目的のための實用の運動が始められ、PEK (P oleta Esp-Korespondo) の組織の下に各國の階級的 (sp. 實用者が國際的に統一的に組織されるに至つた。

階級闘争の日増しの激化、社會主義建設の強力な進行わ今までに見ない程度で國際的連帶の必要お全世界の労働者農民階級に求めている。そして esp. わその國際的共動における最も鋭い武器であることが大戰後約 10 年に渡る SAT の活動によつて充分明示された。かくして最も意識的な目的的な PEK の活動わあらゆる分野の勞農通信運動の中にシツカリとその組織の根お下ろした。過去 2 年に足らない短い期間における PEK の活動わハッキリとこの事實お保證している。

この大衆的な組織の上に國際的に行われる esp. 實用の運動わ労働者農民の國際的闘争に力強い効果お與えるばかりでなく、esp. 運動の今後の發展にスバラしい影響お與えるものである。もちろん esp. の實用わ今までにもかなり行われて來た。しかしそれわいづれも愛好者的な目的と限られた人々の間にだけしか行われなかつた。時間と金のあるブルジョア商人や學者にわ esp. などの新來の國際補助語わ必要でわない。國際的商人や企業家にわ有給有能の通譯者がついてゐるし、技術家

や科學者や特定の國語をお心得ていれば、完全に充分と言われなくとも、必要な程度まで用お足せる。トーキーにおける言語の問題が如何に解決されているかお見れば解るし、またブルジョア科學理論や技術の研究や何も廣般な大衆に直接に依存しなければならないような性質のものでわない。またラヂオが如何に國際的超國家的性質お持つていると言え、現在の資本主義社會にあつては、*stata lingvo* 普及の役割を演じようとも、決して國際共通の目的のために國際語お利用するようなことお決してあり得ない。つまり資本主義社會においてお半人工語である國語の發展おその歴史的任務としていのである。これおブルジョア言語研究者の研究お見れば直ちに理解されることである。従つて國際補助語である *esp.* お資本家階級の手にあつてお決して大衆的に國際的に組織的に實用されるものでわない。

Esp. お眞に實用し、その歴史的な任務お果させるものお新しい社會秩序の擔當者、労働者農民階級である。彼らにとつて國際語お生活の一部である。その日常の國際的闘争生活の血であり、肉である。たゞ單に愛好者の物好きから、やつても、やらなくともよい新しい言葉でわなくて、國際的に團結し闘争し新しい、階級のない世界、明るい自由の王國お築くためにお絕對になくておならぬ言葉であり、武器なのである。大衆の闘争的生活に基ッお置いた *esp.* の實用の現在における最も大きな道お組織的通信活動によつて開かれる。かくして *esp.* お確固とした社會的地盤の上に、大衆の現實的生活の一部として發展することができる。過半世紀に近い長い間、あらゆる方面から研究、實驗された *esp.* おかくして眞に人類生活の一部門としての意義ある自分の地位お見出すことができる。PEK の階級的 *esp.* 實用の運動お實にその意味において *esp.* の畫期的な飛躍の最初の基石である。PEK の活動お通じて *esp.* おあらゆる建設的闘争的生活に入り込み、ますますその社會的適應性お大きく強くして行くことができるのだ。生活と密接に結び付いて、生活とともに發展することができ、將來のヨリ國際的な共通語えと歩お進めて行くことができるのである。

過去僅か 1-2 年にすぎない PEK 組織による *esp.* 實用の活動おすでにハッキリとその今後演ずべき巨大なその役割おわれわれに示している。たとえ現在の姿お小さなもので

わあつても、その將來の見通しおスバラしく洋々としたものである。

今までの *esp.* の歴史お *esp.* の社會的地位の確保、その國際語としての優秀性の實證及びその普及宣傳の歴史であつた。*Esp.* お社會の荒波の中に失わしめないための基ッ工事の時期であつた。そのためにお *esp.* の言語的統一性の強調——最小限の言語原則お固持し、その分裂による運動全體の倒壊お防ぐことお第 1 の目的として „Fundamento“ おあくまでも *fundamento* たらしめること——が絶対に必要であつた。*Lingva unueco* お守り通すために、あらゆる改良、修正に對して非ダ協的でなければならなかつた。それ故に *Fundamentismo* の演じた役割お歴史的だつたのである。しかし今や *esp.* お國際語として、人類の社會的生活から決して除かれ得ない強固な地位お占め、しかもそれが將來の社會の建設者の階級の手によつて階級的に組織的にとりあげられるに至つたのである。

以上のように、生活と結びついた *esp.* お今後、新しい生活からのあらゆる反映お自己の中に見出し、その内容おますます豊富にしつゝ、次第に將來の世界共通語えと發展して行き始めたのである。

こゝにおいて、われわれお繰返して、*Fundamentismo* が *esp.* の言語的研究の指道精神としての歴史的役割お終えたことお強調する。そして今後の *esp.* の言語的研究お發展的な、國際語の現實的意義の十分な理解の上に立つ、唯物辨證法的な原則によらなければならないことお認める。即ち *esp.* お人類の社會的生活の發展とおあくまでも密接に結び付け、意識的に集團的に國際語として發展せしめなければならないのである。

だが、だからと言つて、われわれお直ちに從來の *esp.* 研究の指道原則——*Fund-ismo* お破り、*Z-ismo* おふみにじるのでわない、*Fundamento* お始め、あらゆる *Z.* のすぐれた *esp.* お歴史的に理解し、今後の研究の最もすぐれた、最も利用さるべき材料として取扱うのである。が一面、われわれの社會的國際的生活が要求するすべての *novismo* に對しては、われわれの發展的な唯物辨證法的立場から勇敢な、ヨリ自由な態度がとられなければならないのである。

Esp. 研究に對するこの新しい立場からの研究おすでに具體的に着々と進められている。1931 年における *Internacia Sekretario* (p. 131 へ續く)

Parola Metodo の話 (1)

岩下順太郎

最近エスペラント界の關心が非常な勢で如何にして日本人にエスペラントを教へねばならぬかと言ふ問題に向けられて來たことは注意すべき傾向である。この事實はエスペランティストがエスペラントの本來の使命を自覺して、その目的の爲には現在に於ける日本の外國語の教授法が決して、唯一完全なものどころではなく根本的に立て直されねばならぬといふことを次第に自覺して來たことを證明してゐる。そして目下のエスペラントの發達の狀態に於て早くもこの問題に一般の注意が向いて來たことは實に喜ばしい限りである。何故ならば素晴らしい勢でエスペラントが普及されてゆく今日、この問題の決定が一日遅れるといふことは吾々が不満を有する在來の教授法に對して心ならずも一日だけ長く習慣的な承認を與へて行くことになつてその結果、より好い方法の實施をそれだけ困難にする結果となるからである。

今迄の教授法は全く知識階級的であつて、吾々の言語器官のほんの一部のみが極端に訓練されながら、他の言語教授上一層基礎的な問題は殆ど取扱はれてゐないと言つてよい。この様な教授法はエスペラントの社會的役割から見ても又純粹な言語教授上の理想から見ても適當なものではない。それにも拘らずこの教授法は既に長い間の習慣となつてしまつたので一般に何等の疑を持たれないばかりでなく、却て言語習得の本格的な方法であるかの様に誤信されてさへゐるのである。實に恐いのは習慣的な考へ方の根強さ

である。それ故吾々は新しい時代の爲に言語教授の最も科學的な方法を研究して行くと共に未だに、古い考へ方を持つてゐる人々を説得了解させて一日も早くエスペラント界に科學的な教授法の習慣を確立しなければならない。尤も教授法もその言語のもつ社會的位置に依つて變化をうけるものであるから、まだ宣傳期を脱し切らないで多くの不利な條件の下に戦つてゐるエスペラントとしては直ちに純粹な科學的な方法をそのまま採用することには種々な困難があるとしても、最早その研究が行はれ、その方法に對する正しい認識を以て現在の狀勢に應じて行くことは、日本に於ける國際語問題の正しい解決の要件として吾々全體の責任でなくてはならない。

文化移入の道具としての言語

文化建設の協力の道具としての言語

教授法の問題を考へる時に如何にして外國語を教ふべきかといふ言語教授の科學的方法を考究せねばならぬと共に、その取扱はれる言語がその社會に對して如何なる役割を演じなくてはならぬかをも亦考へなくてはならない。この第二の見方から見ると現在行はれてゐる教授法が科學的な外國語教授の研究者から幾多の非難を浴びつゝも猶一般の承認をうけてゐるかを多少なり了解することが出来る。一言にして言へば現在の教授法は社會が急激に外國文化を移入することを要求してゐた時代に作られたもので、外國語一般が、——諸法規から試験の方法まで——その基礎の上に取扱はれてゐたと

言つてもよい。それだからその組織の中にあつて一語學教師が正しい語學の教授を實施しようとしてもその實行は最も困難であるのである。語學教授の根本的改良又は法規の改正等が長く叫ばれながら猶舊狀に止つてゐるのは、歐洲の自然語のそれ自身の難しさ、又はその教師難等の問題を措いても社會全體がそれ以上を要求する階梯に達してゐなかつたとも言へるのである。結局文化の移入の目的から言へば譯讀中心主義の教授法が最も合理的に社會の要求に應じたものだつたのである。書かれた文獻の理解、これが文化移入の最も手近な方法であるからその役割にあつた人達即ち知識階級の言葉及びその養成機關である學校の教授法が著しくこの方面の訓練に力を注いだことは當然である。知識階級は數から見ても社會の極少數の部分であるし、又言語の方から見ても、書かれた言葉は殊に本といふ様な形式に於ては、非常に固定された、技術的なものとなつて來る爲に、非常に非社會的な性質を持つてゐるのである。勿論本から離れてのみゐる言語の教育が完成されるものではないが、言語そのものから見て本のみから出發してゆく方法は言語を非社會的なものにして行くのである。外國語問題は過去に於ても今日に於ても大きい問題とされてゐるが、依然として、生きた社會に生きた外國語を與へるのではなしに文化の代理通譯者のみを作つてゐるのに過ぎないので、社會そのものと外國語との關係はやつぱり間接的なものとして残つてゐるのである。これには種々な原因もあるだらうが、外國語を社會の必要物として社會的に見ずに、外國文化の移入に必要な道具として

非常に効利的にのみ見てゐた爲であつて、結局種々な社會的な狀勢がそこ迄行つてゐなかつたのだと見てよからうと思ふ。この様に社會全體には間接的な部分的な立場にしかなかつた外國語ではあるが移入文化の内容と密接に結びついてゐた爲に必要以上の禮讃を受けてその結果無統制な外國語の強制となり然もその教授法が實用性を缺いてゐた爲に學習者の數に比してその利用は非常に少く、その努力に比してその効果は著しく小さいことを暴露し遂には或種の學校に於ける外國語教授の廢止或は時間の縮少が叫ばれる程になつたのである。

この状態は文化の移入が次第に飽和度に近づいた爲に外國語の必要が減少したことを一面に於て示してゐるのか。決してさうではない。吾々は今後益々外國語の必要を感じて行くのである。科學に依る國際間の時間及び距離の短縮、國際關心の擴大、更に重大なことは民族間の接觸面が限られた階級から解放されて、次第に社會の全面に擴大されつゝある事實である。之等の事實は必然的に外國語の必要を社會全體に撒き散しつゝあるのであるがそれと同時に外國語の社會的任務が非常に變化して來たことに注意しなくてはならない。世界のすべての實際化の傾向と歩調を揃へて外國語も亦學者の書齋から大衆の實際的利用の手に移りつゝある。今迄間接に理論として聞いてゐたことを大衆は今實際に自分の目や耳や口を通じて聞き、語らうとしてゐるのだ。文化の移入といふ一方的な役割から、文化の協同建設といふ相互的な役割へ轉向しようとしてゐるのだ。今迄、社會的に間接的なものであり、極限されたものであ

り、一方的な効利的な學問的なものであつた外國語は一度大衆の手に移つては、社會にとって直接な、無制限なものとなり、相互的な、協力的な、實際的な役割を演じなくてはならない。文化の移入といふ國內的な、効利的な立場からのみ考へられてゐた日本の外國語問題も、世界及日本の社會的發達と共に、單に民族内の問題でなしに世界の外國語問題の一部をして解決されねばならない。即ち國際語として解決されねばならないのである。かうした社會的役割を持つた言語は如何に教授されねばならぬか。それが今迄の様なものであつてはならないことは明かだ。最も自然な、最も實際的な、最も實感的な、最も言語の根底に觸れた教

授法こそ新しい時代に適當したものである。かうした教授法は當然耳と口と言語訓練の基礎に置いたものであつて rekta metodo, parola metodo, natura metodo などと呼ばれてゐる教授法がそれである。その個々の方法に至つては多種多様であるが、歐洲語と全々語系を異にした吾々は、歐洲に發達し歐洲語を基礎とした組織をそのまま受け入れることは出来ない、吾々としてはもう一層深い所まで掘下げて言語教授の科學を建設しなくてはならない。この問題は言語の關するすべての科學と關連するもので見かけ程容易な問題ではない。それ故吾々は是非とも眞剣に協力して行くことが必要なのである。

(p. 123 より續く)

de Lingvaj Komisionoj の確立は其の最初の基石である。即ちこの國際的 esp. 研究機關は各國の LEA (Laboratoria Esp-Aocio) に設けられた esp. 研究機關 Lingva Komisiono (LK) の活動を統制し、各國による實用の基の上に立つた研究を國際的に組織的に行う。かくして從來の個人的非組織的研究に代つて強力な組織的集團的 esp. 研究が、現實的生活に esp. を實用している廣般な大衆の經驗に基づいて、以上に述べた發展的な唯物辨證法的立場から行れるのである。今や esp. は新しい理論の建設に向つて、新しい力強い歩みだしたのである。

われわれは形式的にヨリ完全な他の國際語をお preferi しない點で、lingva ortodoksulo と呼ばれよう。しかし、同時にわれわれは „Fundamento“ のみに見出される形式だけで、われわれの言語活動を限定してしまおうとしない點で、lingva reformemulo と名付けられるであろう。

われわれの見地はあくまでも、共同の生活のために建設闘争している國際集團の社會的必要の上に築かれ、この社會的に必要と感ぜられる改良、修正に對しては何ら heziti してゐないのである。即ちわれわれは esp. お人類の社會生活の發展に應じて絶えず發展す

べき言語とし、その社會的生活要求に基づく reformado に對しては十分の自由をお認めなければならぬのである。

要するに、新しい進歩的 esp-isto はその esp. 研究において、esp. お人類の言語の發展史から切離された固定した存在と考えず、人類の社會的發展における必然的な歴史的な言語として理解し、即ち國際語を科學的に理解し、今後の esp. の發展に對して集團的に意識的に働きかけなければならぬのである。

「作文添削」五月號課題

締切四月末日

- 1) なんて變挺な問ひだらう。聞いて居る彼は横を向いて笑ひ出すまいと口をかたくつむつた。
- 2) 僕は君の喜びを分けて貰ひたいし、又君の悲みをも共に負ひたいな。
- 3) 僕は恥かしくて顔が眞赤に上氣した。
- 4) 此ちら側から行けば何も怖くはないではないか。
- 5) 机に頬杖ついて「太郎ちゃんに何か事があつたのかえ」と母は尋ねました。
- 6) 古池や蛙飛びこむ水の音。

再歸代名詞を中心として

高 橋 運

13. 論理の譲歩

エスペラントは自然語から便利且つ合理的なるものを抽出し、更に獨特の語法を加へて人的技巧の極致において成立せる言語である。故に語法の解釋、ときには決定に關してさへ論理の適用さるゝ餘地は甚だ大である。本來語の形式は論理よりもむしろ便宜に従ひ決定されるのであるが、エスペラントでは便宜と論理とが原則として合致し、従つて論理も亦文法研究において重要な役割を演ずるのである。けれどもこの両者が相離反することは勿論考へ得べき事である。殊に語の形式の内包が漸次複雑となり、錯雜せる多數の *ideoj* が簡單なる形式に包含せしめらるゝに至れば、最早單純なる論理の適用は排除されるのである（論理の譲歩屈服）。これ等の現象は再歸代名詞においては對照のためにする再歸形の特例或は *lasi*, *nomi* に許與される支配力の擴張その他種々の場合に證明されるのである。

14. *nomi* と再歸代名詞

Li (A) nomis lin (B) A-a plej fidela vasalo. の *A-a plej fidela vasalo* は目的語 *B* の屬性を示すが故にその支配の下に立ち、主語 *A* の支配を排斥するのである。即ち主語 *A* は自己の動作 *nomi* の支配範圍を超えて再現したものと謂ふべきである。故に *A-a* は *sia* よりも *lia* が正當である。即ち：

Li (A) nomis lin (B) lia (A-a) plej fidela vasalo. = Li (A) nomis lin (B), ke li (B) estas lia (A-a) plej fidela vasalo.

しかしながら、この解釋は私達の自然的な語感には著しく反するのである（再歸代名詞のみならずあらゆる語法を『論理一點張りで決定』すべからざることは言ふまでもない）。私達の語感はむしろ *sia* といふべきことを命ずる。

Ŝi penis plenumi kiel eble plej bone tion, kion malgraŭ ĉio ŝi nomis sia devo (M. 149/23).

Tio ĉi estis la unua fojo, ke ŝi nomis ŝin sia filino (F. 19/16).

何故か。前掲の形式において *A-a plej fidela vasalo* は *B* の屬性を示すとは云へ、*B* の動作の概念（或は少くとも *B* の支配を暗示する語辭）が文中に判然としないのである。そのため私達の語感が *nomi* に全文支配の權力を認め、目的語 *B* の支配する領域を看却するからであらう（これ亦私の動作理論の一適用と解せられざるか）。

さりながら初めの解釋を私達の語感を無視した單なる理論の遊戲として破棄すべきでもない。何となれば私達の間には徹頭徹尾物事を論理的に考へ、ものと言ふ者が無いとは限らないからである（F. K. 52/34 參照）。なほ：

Li (A) nomis lin (B) sklavo de sia (A-a aŭ B-a) edzino.

における再歸關係を考へられよ。

かくして私は D-ro Lippmann と共に *nomi* と再歸代名詞の關係については上述の二つの異つた解決を同時に認容せざるを得ない。だが、*nomi* の全文支配を認めて全文を單一なる再歸關係に置く方が誤解を避け、私達の語感に適合することは確かである。

和 文 エ ス 譯 添 削

大 橋 介 二 郎

1) 彼は本職の外にエスペラントの個人教授を、内職にして居る。

『職』には, laboro, okupo, metio, ofico など色々ありますが, 本問の『本職』には profesio がよいと思ひます。profesio は一般に生活を立てる爲めの仕事と解さる可き語。本問では『内職』に對して居る關係上特に ĉefa の字を入れて, 對立させるのもよいでせう。『本職の外に』, は krom (sia) ĉefa okupo, 或は krom の代りに ekster, apud など用ひます。krom de sia ... とした人がありました。これは krome de が宜らしい。ついでに, よくやる間違ひは, 例へば Ni diras al vi nenion alian krom pura vero. の時 krom puran veron と nenion と同格のつもりで目的格にする事です。krom は前置詞ですから, この際 n を取りません。krom を ol にて代用すると n を取ります。nenion と同格になります。krom lia p. は sia に直す。『個人教授をする,』private instrui; persone instrui, (ne kiel instruisto de lernejo); doni privatajn lecionojn. individuo は或集合體を形成する個體。だから individue は『銘々に』, 『各自に』, 『個々別々に』, の意となる。反對の『全對』と云ふものが, いつも言葉の裏に持たれて居る。individue instrui は五十人の受持ちの生徒を學校で一時間に一緒に教へるのでなしに, 一人一人別々に教へる意となる。『内職』は flanka, apuda, krom'profesio. 場合によれば sekreta など使はれる。答案中に private sin okupi je

persona instruado の様に sin okupi が大部使はれて居た。中には sin を入れない人もありましたが sin を除けば, -igi を接尾せねばなりません。sin okupi je は sin okupi de としてもよろしい。Z. のものには兩方ありますが, 多分 de の方が後で用ひられたものでせう。ついでに, 『私はいま間暇がない』は Mi nun estas okupita. (R. okupata. Lingvaj respondoj 参照)。代表作二つ。

Krom sia ĉefa okupo, li flanke donadas privatajn lecionojn de Esperanto.

Li private instruas Esperanton volontuloj flanke de sia ĉefa okupo.

2) 花子は息をはづませ, そして陽氣に笑ひ乍ら一と休みしようと, ストープの側の麻の覆ひのしてある長椅子に, ドツカと腰掛けた。

『息をはづませる』は spiregi; mal-facile spiri; が一番多かつた。其の他 perdi spiron が一人, これも『息がはづむ』意です。anheli と云ふ字があります。病氣で息切れしたり, 馳けた後の息切れなどに使はれます。『一と休み』は momenta ripozo でも ripozeti でもよろしい。『ストープ』は kamento は壁等につくりつけになつて居る爐。forno は持ち運び出来る普通のストープ, 或は大形のパン焼ストープ等。『麻』は麻布の事ですから tolo でよろしい。tolo は lino や kanabo を材料とした織物。tolaĵo は普通麻織に限らず『下着類』の意味に使はれます。『覆ひのしてある』は kovrita が

大部分でしたが、この外に *tegi* と云ふ字がある事も覚えて置いて下さい。 *tegilo* は椅子なら椅子の形に出来てゐる袋で、椅子の一部をなして居ます。『覆のしてある長椅子』は *kanapo kun tota tegilo* でも、 *kanapo tegita per tolo* でもよろしい。 *per* は *de* でも宜敷いが、 *de* と *per* を使ひ分けると、 *La kanapo estas tegita de servistino per tolo. La montosupro kovrita per neĝo.* (雪を材料と見、義動者を神と見る)。 *benko* は公園等にある粗末な板の長椅子。『ドツカと』この様な日本語に相當する副詞は至つて少ない。 *brrr!* ブルツ; *krak!* メリメリ、或はガチャン; *bum!* ドーン; *hiss!* シューツ; *honk!* ブーブー(自動車); *tin tin!* チンチン; *tiktak!* チクチク(時計)などで、シトシト; シクシク; グツスリ、などに適當する字がないから相當の副詞を使つたり、他の *esprimo* で出来る丈近い感じを出すより仕方がありません。『ドツカと』の答案には、 *profunde; forte sidiĝi; kun bruo sidiĝi* (少し痛さうだ), *sin faligi sur...*; などでしたが、 *sin ĵeti en (aŭ sur)* が一番よいかと思はれます。一例。

Hanako, malfacile spiregante kaj gaje ridante, sin ĵetis en la kanapon kun tola tegilo, apud la forno, por ripozeto.

3) 此の繪は僕の友人が書いて呉れた丈に大層氣に入つて居る。

要點は『書いて呉れた丈に』です。京都桑村君の *Tiu ĉi pentraĵo tre plaĉas al mi tiom pli, ke ĝi estas farita de mia amiko.* が答案中の一番です。 *tiom pli..., ke...* 『～である丈、それ

丈』 *des pli* でもよろしい。中に *des* 丈で *pli* の無い人がありました。 *des* は *pli* か *malpli* と一緒に用ひられる助辭です。 *ke* を *ĉar* としてもよろしい。『書いて呉れた』に對して *al mi* か *por mi* を入れた方が原文に近い。さもないと展覽會の友人の繪でも見てゐる様にもなる。

Tiu ĉi pentraĵo (aŭ bildo) al mi tiom pli plaĉas, ĉar mia amiko pentris ĝin por mi.

4) 戸外のいてつく様な寒さに引きかえ、室内では爐に赤々と火が燃えて居た。

『いてつく様な寒さ』は *frosta malvarmego* (答案中八割)。 *trancila m.* は *tranĉa m.* の思ひ違ひでせう。『引きかえて』は *dum, kontraŭ, kontraŭe*, などが適當で、 *spite de* は『～にもかゝわらず押して(強いて)』の様に反對する意志が伴はれます。 *malgraŭ* は『～にもかゝわらず、それにはおかまいなしに』で *malgraŭ ke la vetero estas frosta, li laboras ekstere.* などに適當。(イシグロ君)の *Dum ekstere estis frostige malvarme, interne ruĝe brulis fajro en la forno.* の様に *dum* を用ひるのもいい。 *dum* は反對の意味を持つて居ます。 *Li estas forta, dum mi estas malforta. kontraste* (對照) と云ふ字を用ひれば、 *Frosta malvarmego de eksterdomo akre (forte) kontrastas kun ruĝa fajro, kiu brulis en la kameno.* 或は *kontraste kun tio, ke ~, en la domo brulis ~.* 『赤々と燃えてゐる』は *ruĝe brulas* の外に何にかよい形容は無いでせうか。『爐に』は *sur* を用ひてもよい。 *sur kameno oni kuiras.* シンドレラの繪にあ

る様な古風な *kameno* は臺所用で上に *kamenkapuĉo* がついて居ます。ハイカラな室内用では上が一種の飾棚になつて居ます。Ekzercaro §25 の *Sur la kameno inter du potoj staras fera kaldrono...* は後文の *vaporo* の具合から見ると *kaldrono* は火に掛つて居て、其の両側に *potoj* があると思はれ。*sur la kameno* は *sur la fajro* である様です。*kameno* には冠詞があり、*potoj* にはないから、*inter du potoj* は *kameno* を形容して居るのでなく *staras* に掛つて居ます。(これはよく出る質問ですから書き加へておきます。) 答案一例。

Eksterdome regas frosta malvarmego, kontraŭe de tio, en la ĉambro sur la kameno brulis gaja fajro.

5) さして早急の用件には無之候へども、全員臨席中に解決致し度き儀有之候。

慨して成績良好でした。*alesti, ĉeesti*, は同じ様なもので臨席, 出席, *apudesti* は付き添ふ; 居合はせる; *foresti* 缺席, 歸る (*foresti el la oficejo*), 『早急な用件』*urĝa afero*, 『解決する』*solvi, decidi, doni rezultaton*. 答案一例。

Estas afero, kiun ni volas solvi en ĉies alesto, kvankam ĝi ne brulas (aŭ urĝas).

6) たつた今隣室で咳をして居たのは、君だつたのか?

『たつた今』=*ĵus antaŭ momento*, 『隣室』=*apudĉambro*; *la plej proksima (najbara) ĉambro*. 「やあ君だつたか?」と云ふ時に、*Ĉu ĝi estas vi?* の様に *ĝi* が一般に使はれる。*Ĉu tiu estas vi, kiu ...?* でも勿論よろしいが

ĝi を使つた方が氣がらくで口調がよい。*ĝi* は性の區別のつかぬ、或は區別する必要のない時に人間の代名詞にもなります。其他 *tio* や *tiu* の代りに *silabo* が一つなので重寶で使はれます。*La cerambiko nenion diris, sed oni asertis pri ĝi¹⁾, ke ĝi²⁾ des pli multe pensas, (Andersen II) ĝi¹⁾ は *La cerambiko nenion diris*, を受けて *tio* の代用, 後の *ĝi²⁾* は *cerambiko* を受けて居ます。『残切蟲は何にも言はなかつた。併し人は、何にも言はないのは、それ丈考へが深いのだと斷言した。』答案一例。*

Ĉu ĝi estas vi, kiu ĵus antaŭ momento tuis en la apudĉambro.

7) 彼女の洋装は垢ぬけて居る。

『垢ぬけて居る』には大分苦心の跡が見えたが、残念乍ら思はしいのがなかつた。*elegante vestita* や *admirinde vestita* 丈では鳥渡不足が感ぜしめられます。『垢ぬける』なんて云ふ日本語は大好きな日本語ですが、どうも *Esp.* にシツクリしたのが見付かりません。御参考に例題二三。

En eŭropa vesto ŝia eleganteco lasas nenion por kritiki. (批判の餘地が無い、斷然后抜けて居る。)

Ŝi vestiĝas per eŭropa kostumo en tute rafinita gusto. (趣味が洗練されてゐる。)

Ŝi ŝajnas tute ŝika en okcidenta kostumo. (*ŝika* はシック, 正しくはシツクと云ふ佛語原の日本のモダン語で、粹で洗練されてモダンの事。*Plena vortaro* に出て居ますから安心して使つて下さい。)

中村鶴三君と *Migranto* 君の三月號答案は遅く入手先月號に間に合ませんでした。

質 疑 應 答

(Lingvaj Respondoj)

K. Otsuka

★ Japano, Germano 等は國民名ならずや、然らば Japanoj 等複數とするは不可にして日本國民の一人は Japanano とすべきか。(本誌二月號 p.48 参照)[逸名氏]

[答] 否。Japano は日本民族の一人を指す、依て二人以上は Japanoj と複數にせねばならぬことは言をまたぬ。日本民族全體を指すならば La japanoj, la japana gento (popolo) とする。従つて Japanano は用ひられることなし。但し日本國に住する人は Japanujano.

★ Mi kaj mia amiko mortigis sian propran infanon なる句は正しきや。何故複數 proprajn infanojn とせざるや。[同氏]

[答] 不適當な sia の用法である。Mi kaj mia edzino ならば：Mi kaj mia edzino mortigis *mian* propran infanon. 全く他人の amiko なら：Mi mortigis *mian* propran infanon kaj mia amiko (la) *sian*. 或は Ĉiu el ni, mi kaj mia amiko, mortigis *sian* propran infanon と云ふが Esperanto の習慣。

★動詞不定法を名詞の如く用ひる場合其の意味が主格の様なときと目的格の如き場合とあり、此の目的格に相當する場合に -in とすれば意味明瞭ですが、文法上許されぬ。然らば如何なる構造によつて明確に辨別し得るか。(西宮石川氏)

[答] 不定法は名詞的動詞としての用法は全く名詞と同様 (1) 主語, (2) 目的語, (3) 補語として用ひられる。目的語として用ひられる場合は普通その文の主語は動詞不定法以外のもの (名詞, 代名

詞等) であることが多い故その不定法が目的語たることは直ちに察知し得る。例へば Esti humiligita mi ne ŝatas に於て代名詞 mi は主格 (-n を付けて居らぬ故) 主語たることがわかり、ne ŝatas は説明語、従つて残りの esti humiligita は此の文の目的語たることが直ちに了解し得る。

主語 (何々は) と補足語 (何々で) は名詞, 代名詞に於ても語尾の區別がなくこれは前後の關係、常識で了解し得る、例へば Malsaĝulo li estas は『馬鹿は彼である』ではなく『馬鹿で彼はある』であることは常識によつて判斷し得る。(尤も li=malsaĝulo であるから場合によつてはどつちにとつてもよいこともある、又 Li estas malsaĝulo と Malsaĝulo li estas との氣分のちがひも出て来る; 模範エス獨習 p. 41 参照)。依て不定法に於ても『は』と『で』とは常識判斷による：例 Vivi ne estas manĝi. 生きてゐると云ふことは食ふと云ふことではない。此の場合名詞を用ひても同様な判斷を要する。Vivo (又は Vivado) ne estas manĝo (又は manĝado) 人生は食事に非ず。

★ Do と tial との差。(O. T. 氏)

[答] tial は前提の説明より結論して『それ故に、かるが故に』と特に前提の『理由』の下にと云ふあらたまつた意を云ひ表はす。然るに do は極めて軽く前述の話を承けて單に其つぎ穗式に用ひる：『と云ふので、(何々だ) それで (何々), してみると (一體全體何々だな)』など。

日本 Esp. 運動の現状についての観察

その 3: 文藝の翻譯

(Observoj pri nuna stato de Japana Esp.-movado. 3: Tradukaĵoj literaturaj)

Kawasaki-Naokazu

科學の方面において、原作の、翻譯の、あるいわ抄録の研究物が續々發表されて、まったく日本が全世界を gvidi しているのに比べると、文藝翻譯わじつにさびしい。科學のものより數において多いであろう、しかし質、すなわちその lingvaĵo にいたつてわ、ある一部分の人と作を除いてわ、ほとんどお話にならない。最近 *Literatura Mondo* 誌が日本のある翻譯を「まさに ŝtonepoko のもの」と評した。日本の各雑誌の新刊紹介を概して點があますぎる。こんな頭をどやされるような忠言もときにとつてわにがき良藥であろう。

ふるわない原因としてつぎの 4 をかぞえることができよう。

「(1) 翻譯者がときとして Esp. の語學的研究を怠ること」。

相當えらい人の書いたもののなかにも(すべての人々)を tutaj homoj としているのがある。こんな誤りやどんな簡単な参考書を見てもすぐわかるはずである。フランス語とちがつて、Esp. でわ tutaj と ĉiuj を區別する。

「(2) 相當まとまつた、そしてかなり信用のできる言語研究書がすくないこと」。

SAT, Plena Vortaro や Wüster, Enciklopedio わりつばなもので、非常に役にたつが、吾人のすべての疑問に解

答してくれない。すなわち Esp. の事實全部が記録せられていない。だからそんなときわ、誰か先輩に聞いてみるか(かならずしも成功するとかぎらない)、自分で Z. およびその他の人の作品をこつこつ讀んで、歸納的研究をしなければならない。急を要するような翻譯にわそれでわ間にあわない。

「(3) Esp. 自身いまだ發達していない點がある」。

現在の Esp. わたいていのことわ言いあらわせるはずである。が delikata な表現になると、まだ我等の要求全部をみたしてくれないかもしれない。„Vi povas iri“ のある場合に „Vi darfis iri“ を用いようと提案する人がこのごろ非常に多くなつた。提案されていないで、そして不便な場合がまだまだあるであろう。京城の國際私法教授長谷川理衛氏わ(法律)のみをあらわす言葉がないといつている。„leĝo“ わ法律にかぎらず、他の場合にも用いる。„ŝtatleĝo“ とやつても困る場合があるそうだ。

「(4) Esp. と日本語の構造、すなわちヨーロッパ語式表現と、日本語式表現とのちがい」。

兩者かならずしもびつたりしない。(3), (4) についてわ具體的實例を多く集めてあらためて論じるつもり。

Esp. 運動の組織化

金子 美雄

エスペラントが近い將來に於て完全な勝利を約束されてゐる事わ、Esp-isto として之を疑ふ者わあるまい。然しこの必然わ吾等のたゆまざる努力によつて始めて實現されるものだ。誰も驚く事わ、曾つて Esp. を學んだ経験を有しながら現在之を全然拋棄してゐる人達の案外多數である事實だ。これわ曾つての暗黒時代の名残りにすぎないものであらうか。遺憾ながら現在に於ても、初等講習を終つた人々の大多數が至極淡泊に Esp. から離れて行く事實わ、時に Esp-movadisto をして、Esp. の將來に對し悲觀的な考へを起さしめることさえある。Esp. を受け入れる社會的條件の未熟な一般勤勞階級に於てわ無理ならずとするも、最も啓蒙的な知識階級に於てもこの現象の著しいことわ果して何を物語るか。曰く、現在における Esp. の無力。Esperantujo わその人口に於てもルクセンブルクと匹敵するに過ぎないと統計は語る。英獨佛に及ばないこと遠い。人口はさほど氣にとめないとしても最も重大な弱點わその文獻の貧弱であらう。この點三月號の川俣氏の所論に同感せざるを得ない。然し文獻の充實と Esp-isto の數の増加との間の因果關係わ結局いづれを先とすることも出来ない。それは有機的に結合された車の兩輪である。然しいづれにせよ、Esp. 運動のより高い組織化こそ、現在の最緊急事でわあるまいか。Esp. 大衆を引きとめるために、すべてを補ふものわたゞ一つ組織の強大化あるのみと思ふ。しかも、單に一都市、一職

場に於ける組織の強力化ばかりでなく、全國的な組織の下の協働が必要だ。例へばエスペラント宣傳の日を定めて、全國一齊に Esp-isto が立ち上るとき、その威力はどんなであらう。又、今最も大衆的宣傳の有力機關であるラヂオを利用するに當つて放送局を動かすにわ各地の Esp-grupoj の密な連絡が絶對必要である。

然しかゝる組織の強力化わ、日本の最も有力な統一機關たる學會及び La Revuo Orienta を通ぜずしては不可能である。中心のない組織は結局形だけに留る。今吾人は學會及びその機關誌を中心とし、核として組織の強化を圖らなければならない。今學會から呈出された地方委員設定案は、この意味に於て重要なモメントである。この地方委員が、在來の地方會通信員の名ばかりの變化であつてわいけない。それわ、その地方の學會員の有機的な組織から生れなければならぬ。地方會は學會員の組織を中心として始めて、Esp. 運動の正道を歩み、勝利を確立することが出来るだらう。學會員倍加運動も、この時始めて成功を見るのであらうし、學會を中心として始めて文獻の充實も期せられると思ふ。

今學會は 2000 の會員を擁し、その影響下にある Esp-grupoj わかなりの數に上ると思はれる。然しその grupoj の中にわ、單に社交的團體に終つてゐるものわないであらうか。學會 2000 の會員の中にわ、たゞ孤立的に Esp. を弄ぶにすぎない人達わ居ないであらうか。

吾人は今、之等の團體及び個人が新しい結合の下に蹶起されて明日の勝利を確立されることを祈る次第である。

追記：組織を理論だけに終らせぬ爲に、もつと具體的に論することが必要であつて、これに對しては大方の同志の活潑な討議が必要である。

孤立した會員のある地域での統一を、それだけでも充分意義があるが、La Revuo Orienta の合評會（或は研究會）は容易に行ふことが出来やう。又更に組織された學會員の手による、種々の機關に於ける、Revuo の宣傳、入會勧誘、圖書販賣其の他この人達を中心とした地方會の學會の催しへの積極的參加等も考へられる。然し是等の實現は結局その人達の熱に左右される。各人がその歴史的な使命の大を先づ悟得されることを望むのである。尙仙臺エス會では講習、輪讀、會話會の外に、Esp. 作文練習のために、

Esp. 作品の廻覽雜誌を作つて互に訂正、批評し合つて居る。之れを、作文の技術向上に眼に見えて効果があるし、先の文獻充實のためにも有意義と思ふ。近來の地方會の活動状況を見ると各地でそれぞれ機關誌を発行し非常に活氣を呈し喜ばしいが、或地方會で非常に間違ひだらけのエス作品をそのまま發表してゐる。これら第一機關誌を印刷する勞力が損だし、又さういふ機關誌を発行しても一向讀んでくれる人もなく又技術の向上もなされない。廻覽雜誌で十分に訂正批評を加へその中から立派な文だけを選んで發表する様にすると勞力も省け、技術の向上も行はれその地方會に屬する一般會員の技術がその最も優れた esp-isto の grado まですぐ追付くことが出来、一舉兩得といふことが出来る。又會話會以外に雄辯會を催して居るが、これも大變結果がいい。参考までに御報告します。

再び年鑑に就いて 各地方團體へ

1939 年以來暫らく出さなかつた Jarlibro を、本年は出したいと思つてゐます。内容は、2 月號にも書きましたとおり、從來の會員名簿式をやめ、各地の地方會（勿論、東京をも含み、學校、官廳、會社等の grupo, rondo, klubo 等を含む）を中心とした地方會名簿式のものにしたいと思ひます。2 月號の廣告により、非常に多數の材料を得ましたが、2 月 20 日の締切後に至つても續々集まつて來ますので、締切を下記の通り延期することに致しました。

報告洩れの向はこの際、下記の諸項を至急御報告下さい。

なほ、すでに報告済の向も、第 8 項に就いて追加御報告願ひたく存じます。

1. 會の名稱。
2. 會の事務所所在地。
3. 會の役員名（會長又は幹事の住所を明記される方可）。
4. 會合日時及び回数等。
5. 會合場所。
6. 會の機關誌（發行回数）。
7. 會主催の各種催物等。
8. 會員數（1932 年 3 月末現在）。
9. 締切：4 月 30 日。
10. 宛先：東京市牛込區新小川町 3 の 15 日本エスペラント學會「年鑑係」。

ESPERANTO LIBRO RECENZO

★

新刊紹介

★JANE EYRE, de Charlotte Brontë, trad. de H. J. Bulthuis, eld. de W. J. Thieme & K-io, Zutphen, Holando, 1931; 16×24 cm., p. 493; prez. bind. f 5.90, broŝ. f 5.25. 目下取寄せ中。

虐げられた女の戀の情熱が炎となつて灰色に蔽ひかぶさつた陰鬱の中に燃えてゐる。ブロンテ姉妹の小説は實にかうした憂鬱の背景に描かれてゐる。然しシャロットの卒直な大膽な舊套を脱した筆と鋭い人生に對する洞察力と思想とはその中であつて強く迫ってくる。著者 Charlotte Brontë は 19 世紀の半ばに於ける英國の讀書界に大きな亢奮と潑刺とした興味を植ゑつけ、現今に於てもその名を忘れられぬ一流の女流作家である。

本篇の女主人公 Jane Eyre は幼時父母に死別して伯父の家に養はれ、義伯母従兄妹に虐遇され慈善學校に送られ、長じて家庭教師になり、その家の主人 Rochester と熱烈な戀に陥り、婚儀を舉げんとし、その狂へる妻の未だ生けるを知つて遁れ、深刻な片戀に燃えつつ辛苦を嘗め、後盲目となつた Rochester を訪れて結婚する正義感深く意志の固い女性である。作者は Jane を自分そつくりで寫してはゐないが、Jane なる女性が影の薄い家庭教師で、おとなしく、怜悯であるが不美人で金に不自由であつた點

など Brontë に似てゐる。然しその人物は作者が自己の性格乃至境遇で餘り不利な點は吹きこんでゐない故、人物としては似てもつかなくなつてゐる。

傳記によれば或る日作者は妹 Emile, Anna に向つてかく云つたといふ。

——一體小説の女主人公を一樣に美人に描くことは間違つたことだ。人道上からも間違つたことだ。

——でも女主人公は美人でないと讀者の興味を牽かない。と妹達が答へた。

——そんな筈はない。私が實地に證明してあげよう。さう云つて書いたのが此の “Jane Eyre” だといふ。此の作品に對してとつた作者の態度は——私は自然と眞實とを唯一の道しるべとしてその跡を辿つた。私は空想を抑制しロマンスを制限し、毒々しい扮飾をさけ、たゞ穩かに眞面目に眞實であることのみを念とした。……果然 “Jane Eyre” は赤裸々な舊套を脱した奔放な熱烈な新しいしかし眞實の言葉で綴られた物語として讀書界に Sensacio を巻き起した。

Brontë の初期の多少の生硬さは除き Jane Eyre に盛られた、イプセン的精神と熱意及びそれを表現する眞面目なしかし鋭い筆觸はたしかに何物かを讀者に與へずには已まない。

原本は英語で日本では高等學校一年程度で讀むものである。“Jane Eyre” の翻譯は世界各國に於てなされてゐる。譯者 H. J. Bulthuis (LK) については讀者の既に御承知の通りで Idoj de Orfeo, Vila Mano 等の原作を初め Imperiestro k. Galileano, La Leono de Flandrujo, La Aventuroj de Robinsono Kruso 等の翻譯をものしてゐる定評ある筆を以

て、此の名作を再現してゐる。之は Bulthuis が前から譯して原稿として藏してをつたもので、1927年には第一、第二章について “The British Esperanto Association” の premio を受けてゐる。彼自身他の獨、佛、和蘭譯を對照して、エス譯をそれ等以上に引上げる可く努めた。原文にフランス語ドイツ語の原語が處々出てくるのを、譯者はそれに脚註を附してをるのは便利である。

Brontë の流暢な文と Bulthuis の譯筆の巧みさを見るために一文を讀もう。

Folianta mian libron, mi tiam kaj tiam atente rigardis la aspekton de tiu vintra posttagmezo. En la malproksimo mi rimarkis nur grizajn nebulon kaj nubojn: tutproksime kuŝis malseka herbejo kaj staris ventege skuataj arbetoj dum la pluvo seninterrompe kaj sovaĝe rapidis antaŭen pro la subitaj, fortaj kaj bruegantaj ventpuŝegoj.

吾々はかゝる名篇が四六倍判 500 頁もの彪大な形に於て現れたことは Esp. literaturo 界に大きな力強さをおぼえるのである。“Jane Eyre” の和譯は三種も最近出されてゐる。邦譯と對照して讀んでも面白いし、又英語の原文と比較するのも翻譯の研究にもなり、更に文を獨立して讀むときエスペラント文独自のよさの發見によつて限り知られぬ興味と共に最後の頁まで讀み續けずにはをられなうであらう。(小此木)

★GAJAJ VESPEROJ, de C. Walter, eld. C. Walter, Berlino, Germanujo, 1931; 12×17 cm., P. 80; prez. 七十五錢(郵税二錢)。學會に在庫あり。

Gajaj Horoj por Esperantistoj でおなじみの C. Walter の新著。氣の利いた小話百十數篇のほか、數字遊び、言葉のしやれ、なぞ等、等、に加へるに、Esp-istoj の會合に適する遊戲法約四十種。本書一冊あれば、讀書にあきた時、電車の中などの退屈しのぎにもよく、又、會合にあたつて、大いに『愉快的夕べ』を持つことができやう。小話の見本一つ。A.: Kiam longiĝas la tagoj? B.: Je la fino de l' monato.

★ESPERANTO-SIGELMARKOJ en 12 lingvoj, eld. Heroldo de Esperanto, Köln, Germanujo, 1932; prez. 十葉(八十片) gmk. 0.55.

昨年出たものに、更に新しく六ヶ國語を加へ、Esp., 英、獨、佛、西、伊、蘭、匈、チェッコ、ポーランド、セルボ・クロアットの十二ヶ國語での宣傳句を入れたもので、圖案及び文句は、ラヂオ、航海、鐵道、貿易、漫遊、スポーツ、自動車、飛行機のそれぞれに關する八種。綺麗な印刷で二度刷、非常にすつきりしてゐる。各語別に色わけしてある。

★ŜIRKALENDARO por 1932, eld. Heroldo de Esperanto, Köln, Germanujo, 1932; prez. 壁掛用 gmk. 1.50, 卓上用(金屬製臺附) gmk. 3.20.

卓上用のは現品が來ないので、批評ができないが、壁掛用は 32×22 cm. の臺紙(緑色の星に、ESPERANTO, LINGVO INTERNACIA の文字が配してある——星の格構は、すこしお行儀が悪すぎて、感心できないが、文字は、例によつて、ヘロルド一流のスマートなもの)にとりつけた 17×15 cm. の柱曆。deŝiraĵo は、すべて、緑と黒との二色

刷。一枚は七日に割當てられてあつて、紙面の約 $\frac{2}{5}$ の spaco には、小論、詩、繪入小話等が印刷してある。なほ、各日附の横には書込み用の餘白が十分にとつてあるから、これ一つで、カレンダー、備忘日記、小讀物の三つを兼ねてゐるわけである。

La kalendaro mem estas tre kontentiga, sed ni nur bedaŭras, ke ĝia apero estis tro malfrua. Ĉar ni ricevis ĝin apenaŭ en la mezo de Marto, malgraŭ tio, ke ni recenzas laŭeble plej frue, niaj legantoj povos havigi ĝin al si nur en Majo, eĉ se ili leginte la recenzon senprokraste ĝin mendos. Novjara Kalendaro en Majo! Sensencaĵo! ĉu ne? Ni esperas, ke la ankaŭ multe ŝatota kalendaro por 1933 aperu ne en '33, sed en 1932—se eble, eĉ pli frue ol en Novembro, por ke ni povu bone rekomendi al niaj legantoj.

★STRANGA BUTIKO, de Raymond Schwartz, eld. Esperantista Centra Librejo, Parizo, Francujo, 1932; Prez. 一圓五十錢 (郵税四錢)。學會に在庫あり。

Verdkata Testamento, Anni kaj Montmartre 等、等で、Esp. 界隨一の ŝika knabo (aŭ malknabo?) の名をほしいままにするパリツ子 Raymond Schwartz の詩集。彼氏の開店引札にいふところの Optimismo 街と Bonhumoro 街の角に、真正面の世界大危機記念像を尻眼にかけて開かれた Stranga Butiko で賣出す品物は、すべて、モダンな Parizano ごのみで、時代おくれの sentimentala butero, flatpomado, ricin- aŭ gad-oleo は、とつくに賣切れた

とみばつてゐるだけに、大いに愉快なものばかりである。一例をあげれば、日本の貴族 Piroŝima (*ne preseraro de Hiro-sima*) が無常を感じ、捨つべきものは弓矢なりけりなんて思つて Bonzo になつてみたものの、忽ち心境に變化を生じ、おりよく新聞廣告で見つけた harkreskigilo を買つて來て、つひにめでたく har-akiri (ゆめゆめハラキリと讀むべからず) するといふやうな、ヨタで、インチキで、ナンセンスで、しかも、とてもモダンな内容が、シックな stilo で謳つてある。日曜の驛の待合室で彼女に一時間も待たされる時、ふさぎの蟲に見まはれて、つくづく人生がつまなくなつた時、ktp., ktp. に讀むため用意しておいて損をしないことうけあひ。

Rondelo de Grat-ulo dediĉita al la Hetmano de Stranga Butiko

Schwartz, Raymond, ŝika parizano
Malfermas strangan nun butikon,
Liveras varojn, eĉ inĉikan,*
Farita sur la *Sin-ko-bano*.

Li modernaĉa per rikano
Ignoras mondon la panikan
Schwartz, Raymond, ŝika parizano
Malfermas strangan nun butikon.

Por juna hom' en kormal sano,
Li vendus drogon tre efikan;
Eĉ ankaŭ bildon erotikan
Provizas nia he-hetmano.

Schwartz, Raymond, ŝika parizano.
(*Mijake-S.*)

Rimarko. * Inĉika, ne la konfuzita „ĉikani“
Ĉar estas radiko ne ĝi esperanta,
Sed ĉarma japana vortet' kun signifoj
„Fripona“, „intence fuŝeta“, „brokanta“,
Uzata por eĉ ŝatataĵon rikani.

DEZERTO

— S. Kōga —

(Daŭrigo)

Trad. S. Minami

“Do, vi povas viziti tien en alia okazo, ĉu ne?” Mi diris.

“Ne, la virino, kiu fariĝis edzino, ne facile povas eliri eksterdomen. Nepre min akompanu tien, mi petas.”

Kun larmoj en belaj okuloj ŝi petegis ai mi.

“Ni tranoktu en Hakone kaj poste vizitu Jōkaiĉi.”

“Ne, ne, bonvolu akompani min rekte tien, mi petas.”

Mi ne povis ne senti miregon pro ŝia persisteco. Tamen tiam ŝia sintenado estis tiel firma, ke ŝi povus fari ĉion, se mi ne akceptos ŝian proponon, tial fine mi devis akcepti ŝian proponon.

Tiamaniere la geedziĝo fine efektiviĝis, kiel mi sopiris, malgraŭ ke ni renkontis diversajn malfacilaĵojn, de kiuj ni apenaŭ liberiĝis. Sed nur estis domaĝe, ke tuj post la geedziĝa ceremonio ni devis ekvojaĝi al tiu abomeninda dezerto per nokta vagonaro. Laŭ ŝia deziro mi ne diris al aliaj pri tiu stranga vojaĝo, nur dirante, ke ni tranoktos en Hakone. Mi estis iel maltrankvila.

Al mi ŝajnis, ke antaŭ ni kuŝas nesupozeblaj malfeliĉoj. Ho, ve! De la unua nokto de la geedziĝo ni devas vojaĝi al nekonata dezerto. Estas ja malbenita geedziĝa vojaĝo! Ni ne povis preni litvagonon, ĉar ni povis alveni al Hakone antaŭ la 12a nokte — tiam ankoraŭ la fervojo ne atingis ĝis Odahara — kaj ni absolute sekretigis la intencon veturi al Jōkaiĉi. Se mi parolus pri tio, la gepatroj kaj ĉiuj aliaj kontraŭstarus kontraŭ nia intenco.

Tuj kiam la vagonaro ekveturis kaj la homoj, kiuj venis al la stacidomo por nin adiaŭi, malaperis, mi intertraktis kun kelnero pri litoj, sed domaĝe ĉiuj litoj estis okupitaj. La duaklasa vagono estis ankaŭ plena kaj ni ambaŭ apenaŭ povis sidiĝi unu apud la alia.

Ju pli la vagonaro kuras antaŭen, des pli mia edzino — ho, mi ja povas nomi sin edzino — ŝajnis neordinare kortuŝita kaj ŝi klinis la kapon eĉ kun larmoj en la okuloj. Kvankam larmoj estas nekonvenaj ĉe ekveturo de la geedziĝa vojaĝo, tamen devas esti, ke ŝi estas forte kortuŝita, ekvojaĝante malproksimen kun la sopirata amato, kies edzino jam ŝi estas.

Tiam povus okazi, ke ŝi ploregas apogante sin sur miajn genuojn, se

aliaj homoj ne ĉeestus.

Mi eĉ ne povis endormiĝi pensante pri la diversaj implikaĵoj, kiuj rilatis ŝin, kaj ŝi, kiu nun sidas apud mi, kaj minacanta dezerto, kiun ni estas vizitontaj.

Ho, ve! Malbenita geedziĝa vojaĝo!

Tio okazis ĝuste tiam, kiam ŝi iris al la tualetejo. Pro la balancado de la vagonaro hazarde mia ĉapelo rulfalis de la retbreto, kaj ĝi tuŝiĝis kun la kapo de fraŭlino kun nigraj okulvitroj, kiu ŝajnis instruistino de Koto kaj havanta nesufiĉan vidkapablon. Kaj poste la ĉapelo falis sur la plankon.

La fraŭlino tuj prenis la ĉapelon por mi. Mi dankis ŝin, kiu flustris al mi en la orelon. "Via kunulino estas danĝera! Estu singardema!"

"Ha!" Mi surpriziĝis. Mi intencis demandi, sed ŝi tuj prenis antaŭan sintenadon kaj ŝajnigis sin serioza.

Mi intencis rigardi ŝin en la vizaĝon, sed tiam mia edzino kun pala vizaĝo aperis ĉe la pordo, kaj tial mi perdis ŝancon demandi ŝin. La edzino reveninta kun pala vizaĝo sidiĝis kaj sekrete donis al mi paperfolion.

"Ĝi estis metita sur la tablo en la tualetejo." Per mallaŭta tremanta voĉo ŝi diris. Silente mi malfaldis la paperon. Estis skribite per mallertaj literoj; kien vi intencas vojaĝi en la nokto de la geedziĝo? Vi pentos, se vi iros malbonan lokon! —

Mi miregis. Sed al mi ŝajnis, ke estus pli bone ŝin ne timigi, do mi diris al ŝi ŝajne indiferenta.

"Nenio grava! Ne estas certa, ke tio estas skribita por ni. Vi ne prenu tian sensencan aĵon."

La edzino silenta mallevis la okulon.

"Se tio vin maltrankviligas," mi diris profitante bonŝancon, "ni el-vagoniĝu ĉe la venonta stacidomo, kaj ni ĉesu veturi strangan lokon."

"Ne, ne!" Mordante la lipon, ŝi kriis per mallaŭta sed forta voĉo.

"Ju pli mi renkontas malfacilaĵojn, des pli mi devas iri tien."

Ŝia persisteco min iom surprizis kaj mi ne povis respondi, pro kio ŝi ŝajnis maltrankvila kaj diris,

"Mia kara, bonvole tenu vin trankvile. Permesu mian kapricon, mi petas. Mi ja havas kaŭzon. Mi kredas, ke certe venos la tempo, en kiu vi tion komprenos. Mi neniam vin ĝenos plu per kaprico, kaj mi fariĝos via obeema edzino. Nur unu fojon, permesu min, mi petas!"

Tute facile mi eksentis kompaton por ŝia fervora sintenado.

"Bone, bone, mi jam komprenis. Estu trankvila." Silente ŝi detenis

sin de larmoj. Subite mi ekrememoris kaj rigardis la najbaran fraŭlinon kun nigraj okulvitroj. La fraŭlino sidis sur la kruroj sur la benko kaj ŝi jam dormadis alpremante la frunton al la fenestro. Tiel finiĝis la unua abomeninda nokto de la geedziĝo.

Kaj ni alvenis al Maibara ĉirkaŭ la deka antaŭtagmeze.

Por alveni al Jōkaĉi, oni devas veturi de Hikone per Oomi-fervojo, aŭ de Oomihaĉiman per tramo. Ĉiuokaze ni devas ŝanĝi vagonaron ĉe Maibara.

II

Ni veturis de Oomihaĉiman per tramo. Ni alvenis al Ŝinjōkaĉi ĉirkaŭ la tria posttagmeze. Jōkaĉi estas iom vigla urbo lokita en Oomi-ebenaĵo, kaj estas distribua centro de ŝarĝoj. Serpentaj stratetoj trairas inter vendejoj fortike konstruitaj kun malaltaj tegmentrandoj. Ni eniris en gastejon similan al malĉastejo kun flava kurteno ĉe la enirejo. Ni metis pakaĵojn en la ĉambro kaj tuj mi estis rapidigita de la edzino eliri eksteren ne havante tempon eĉ por ripozeti. Ŝajnigante nin kvazaŭ ni intencas viziti la lokon, kiu baldaŭ fariĝos aerodromo, mi prezentis al komizo la fotografaĵon kaj demandis, kie ĝi estas.

“Ĝi estas Nagatanino.” Je unu vido la komizo diris kaj tuj montris al mi la direkton de la loko. Je la kvara posttagmeze, la suno de printempa longa tago jam estis malsupra kaj niaj ombroj unu sur la alia longaj kaj kurbiĝintaj ĵetiĝis sur muron. Kun scivolemo preterpasantoj rigardis nin. Ni iris suden. Ni transiris malgrandan ponton kaj baldaŭ venis ekster la urbon. Ni paŝis dekstren ĉe flanko de kuracista domo. Tie estis kampoj plenaj de nikotianoj. Ni iris inter nikotianaj kampoj. Baldaŭ aperis vasta dezerto antaŭ ni. Tie estas parto de Oomi-ebenaĵo, kiu ĉirkaŭas la lagon Biŭa. Inter la lago kaj la kampoj staras malalta montaro, laŭlonge de kiu kuŝas mallarĝa longa kampo, kiu ĝuste meritas la nomon “Nagatanino.” En la fronto staras monteto, sed ambaŭflanke kaj malantaŭe kuŝas nur vastaj kampoj. Tie kaj ĉi tie maldikaj longaj arboj faris malriĉan arbareton kaj cetere troviĝis nenio, kio simboligus la printempon. De tempo al tempo aŭdiĝas super ni grakado de korvoj, sed neniu homo paŝas krom ni. Alproksimiĝante unu al la alia, kvazaŭ dezirante ion diri, sed timante esti alparolata de la alia, ni silente paŝis vojeton kaj trapaŝis arbareton. Antaŭ la arbareto la vojeto disduiĝis. Ĉe la forko staris ŝtona statuo de dio, sub kiu mi trovis blankan paperon. Io estis skribita sur la papero. Mi senintence legis ĝin;

Novaj geedzoj marŝu tiun vojon!

Surprizite mi rapide prenis la paperon, kiun mi tuj enpuŝis en la poŝon. Feliĉe mia edzino ne rimarkis tion, ĉar ŝi estis rigardanta flanken.

Kiel terure estas!

La papero en la vagonaro lastnokta, stranga flustro de la fraŭlino kun nigraj okulvitroj kaj hodiaŭa gvidafiŝo! Ni estas lerte direktataj kvazaŭ de iu nevidebla. Mi profunde ekĝemis. Kiam mi rigardis mian edzinon, kiu paŝas kun pezaj paŝoj antaŭ mi, iel sajnis, al mi, ke ŝi estas terura. Ŝi devas havi sekreton! Ŝia sekreto estas neordinara.

Kia sekreto estas kaŝita en ŝia pufa brusto? Kial ŝi devas veni al tiu malproksima soleca dezerto kun sia amata edzo, tuj post la geedziĝo? Iu nevidebla malhelpas tion kaj alia ordonas, ke ni marŝu pluen. Ankaŭ ŝi mem tremas de timo kaj minacata ŝi marŝas per la tuta koro la vojon tute senhoman. Kion signifas tio?

La suno pli kaj pli subeniras. La suno ĵetas lastajn radiojn de supre de monto. Kun stranga grakado korvo forflugis. Fronte montriĝis la pinarbo, kiun mi memoris en la fotografaĵo. Ho! Sub la pinarbo staras pajlsegmenta dometo.

La edzino ekstreme ekscitiĝis. Mi eksentis neesprimeblan timon! Hazarde mi trovis homan figuron, kiu venas de fronte. Ĉar mi kredis, ke neniu estas en la dezerto, mi estis ege surprizita. La edzino ŝajnis ankaŭ surprizita kaj ŝi montris pli multe da paleco en la vizaĝo.

Ĝi estis maljunulino. Vestita per vintra vesto kun flikaĵoj kaj metanta la manojn sur la lumbo kurbiĝinta ŝi paŝis per pezaj paŝoj. Kiam ŝi alproksimiĝis al mi ĝis ĉirkaŭ dudek metroj, ŝi haltis kvazaŭ surprizite. Eble la maljunulino miregis vidante novan edzinon en elegantaj vestoj en tia dezerto. Ŝia miro estus pli granda ol la nia. Kiam ni proksimiĝis al la maljunulino ĝis ĉirkaŭ du metroj, la maljunulo haltante rigardas nin, kaj montris pli kaj pli grandigantan surpriziĝon! Kun larĝe malfermitaj buŝo kaj okuloj kaj tremantaj manoj ŝi rigardegis la vizaĝon de mia edzino. Mi aŭdis murmureton de la maljunulino, kiam mi paŝis preter ŝi.

“Ne devas esti tiel! Neniul povas esti tiel!”

Kun timo la edzino preterpaŝis rigardante la maljunulinon. Mi akre rigardis la maljunulinon pensante, ke ŝi estas unu el diabloj, kiuj malbenas nian sorton.

(Daŭrigota)

Stranga Agentejo

(Poezioj originala kaj tradukita)

Ne estas Diferenco

(*Epi-nova serio*)

De Keiiti Sisido,

agente de „*La Stranga Butiko*“

en Kioto.

Por la aeroplano

Popoloj monkolektas,

Dum fronte kapitano

Soldatojn jen direktas.

Kaj malgraŭ diverssenco

Ne estas diferenco!

(En ambaŭ okazoj estas

... or-dono!)

Je „Manĉurio“ restas

Gramatikista devo,

Dum diktatoro estas

De l' nova ŝtato ĉefo.

Kaj malgraŭ diverssenco

Ne estas diferenco!

(En ambaŭ okazoj estas

... reg-ulo!)

Rim-arko: En „Heroldo de Esperanto“
N-ro 7 (1932) aperis demando „Ĉu Manĉurio
aŭ Manĉurio?“ Estas same „ĝu“ aŭ „ĉu“,
kiel ankaŭ „ef“ aŭ „ev“.

註 (diro de ĉefo) diktatoro 執政

Mi sopiras vin!

(*Ama kanto de virino en drinkejo*)

de Otoha Ŝigure

1) Post la alven' de la vesper',

Doloras min, ho mia kor'.

Al mia brust' de premsufer'

Aperas ombr' de la memor'.

Ho, mi sopiras vin!

Kortuŝiĝas jen mi ĝis plor'.

Atendas vin, ve mia sin',

Sed vane jen, forpasas hor'.

2) Aŭdiĝas jen, la ĝoja kant',

Piedfrapad' trapasas for.

Al kiu do, ve, mi amant',

Demandu ho, laŭ rememor'?

Ho, mi sopiras vin!

Maltrankvila fariĝis mi.

Turmenta sent' ĉagrenos min,

Vizitos min, karul', ĝis vi...

3) Pereas for la rememor',

Foriĝas min la korfigur'.

Por kiu do, la ŝirdolor',

En mia kor' de malplezur'?

Ho, mi sopiras vin!

Malheliĝas jen lampoj jam,

Kaj mia zon' de karmezin'

Malstreĉa, a! malĝoja am'.

— trad. K. Sisido.

海外報道

EKSTERLANDA KRONIKO

宗 近 眞 澄

萬國エスペラント大會

今年の第 24 回萬國エスペラント大會は、巴里商業會議所の公式招待に依り、7 月 30 日から 8 月 6 日まで巴里市に於いて開催される事になつて、既に大會地方委員の顔觸や其の分擔も發表されて居る。大會事務所は

La Maison de France, 101 avenue des
Champs-Élysées, Paris XVI.

となつて居る。

大會參加章の N-ro 1 は糶り賣となつて居たが、遂に 2000 francaj frankoj で大會の會頭たる Georges Warnier 氏の手に落ちた。

N-ro 2—10 は Zamenhof 一家に充てられ D-ro Leon Z., S-ino Leokadja Z., Feliks Z., S-ino Helena Z., D-ino Zofja Z., F-ino Lidja Z., D-ro Adam Z., S-ino Wanda Z. 等懐しい名が並べられて居る。

N-ro 11—100 は 100 f.f. 宛で 101 以降は 125 f.f. となつて居るが、7 月 1 日以後は 75 f.f. 高くなつて 200 f.f. になる筈になつて居る。

今年の 8 月 1 日に於いて 17 歳未満の男女は、年少者用參加章を受ける事になつて居るが、之も 7 月 1 日以後は 30 f.f. のものが 60 f.f. に騰る事になつて居る。

盲人エスペランティストに對しては無料參加章を發行し其の附添者にも一名を限り之を交付する事になつて居る。

大會に對する寄附金、盲人參加補助費等も相當な額に達して居る。

S A T 大 會

第 12 回 SAT 大會は今夏 8 月 6—11 日の間、獨逸の Stuttgart で開催される事になり大會委員も決定して居る。大會參加費は 15 f.f. である。尙詳報御入用の向は

K-do Walter Neuman

Stuttgart, Vogelsangst, 66 Germanujo.

宛に御申込みの事。

九歳の少年の效果的宣傳

白耳義の聖ニコライ祭は子供の祭であるが、その少し前の或る日の事である。わが親愛なる少年エスペランティスト Nanalal 君は、そのお父様に訊いて曰く

『お父さん！ 僕にエスペラント鉛筆下さない？ 僕聖ニコライ祭に學校のお友達にやつてエスペラントの宣傳するんです』

Nanalal 君の此の思ひつきは Bruselo 市のエスペラントお母様と呼ばれて居る Staes 夫人に大いに氣に入つて、立派なエスペラント鉛筆がどつさり此の少年に與えられた。

Nanalal 君の通つて居る Monada 學校と云うのは小規模ではあるが却々進歩した學校で男女教員とも皆菜食主義で、子供達が或る話題や科目に對して興味を惹起して自發的に説明を乞う様になる迄力を入れて訓育を施して居るのである。

それだから至極尤もな成り行として、子供達は鉛筆に立派に大きく書いてある ESPE-RANTO とは何かと尋ねその説明を聽いて後そんな有用な國際語なら自分等も習いたいと云い出した。Nanalal 君は極力エスペラントの指導者になる事を望んだが情勢遂に止むを得なかつた。

此の學校の諸先生も此の語の構造至極簡單なのに一驚を喫して、今や學習に餘念もない。

復活祭が済んでかの此の學校では兒童に、エスペラントの授業をする事になつて居る。

Gandhi 氏とエスペラント

去年の 12 月、印度の聖雄 Mahatma Gandhi 氏は、瑞西の Lozano, Genevo 兩市で演説をしたが、兩回ともわがエスペラント雄辯界の鬼才たる Edmond Privat 博士が通譯の勞を取つた。Genevo 市では此の土地の習慣を破つて正午から演説會が始められたにも拘わらず定刻前既に立錫の餘地もないと云う程の大盛況であつた。印度服を纏うた Gandhi 氏は東洋流に坐つて、例の無抵抗主義思想に就いて述べた。Privat 博士は言葉を逐つてそれを通譯した。聽衆は非常に深い感銘を受けたのであつた。

Privat 博士夫妻は此の老聖雄と印度に同行したが、勿論途上幾度か或はエスペラントに

關して、或は双方共通の友人であつた今は故人の英國エスペラント協會の會頭であつた Pollen 氏の事などが話題に上つたのであつた。

ファシストとエスペラント

近頃エスペラント講習會に關する伊太利からの報道中に、講習會場が往々ファシスト後援會所 (ejo de la faŝista "Post Laboro") となつて居るのを目にするし、又地方エスペラント會がファシスト後援會の一部門になつて居るのを見受ける。

現今世界を風靡するの感あるファシズムの發祥地伊太利に於けるファシスト黨の一機關たる後援會のどんなものかを知るのも、興味のある事柄であらう。

此のファシスト後援會なるものは伊太利の殆んど各市町村に存在するものであつて、その活動分野は誠に多方面に互つて居る。

例えば文化に資せんとする連中は或は外國語講習會を組織し、或は各題目の下に文化講演會を開催したりする。又會員仲間で劇の演出をやる事もある。

體育競技の普及を圖る部門もある、各都市には蹴球、庭球、スキーなどの體育團があつて此の部門に屬して居る。

或は保健の方面例えば遠足や旅行に氣を配つて居る部門もある。

後援會の會員は労働者、農業者、吏員等を主體とするものである。鐵道従業者や通信従業者は特別支部を有し、大商店、大工場には各自の支部を設けて居るが普通支部になつて居る。

後援會員はファシスト黨員たるべしとは限られてない。

會費は年額 5 liroj で會員は劇場、活動寫眞館等で割引を受ける特典を有して居る。又鐵道は會員が團體旅行をする場合に一定數に達すれば割引して居る。

前述の事柄から結論すると、後援會の目的は義務的労働の後に或は保健的に或は精神的に有益な消暇なり慰安なりを與えるにある。

此の成績良好なるファシストの機關を通して、エスペラントが普及されて居る事は即ちファシスト治下の伊太利に於いてエスペラントは不斷の進展を續けて居る事に外ならないのである。

Scherer 氏宣傳旅行を終る

ICK の特別委員としてエスペラント宣傳の旅にあつた Joseph Scherer 氏は、歐洲に於ける最後の日程を終えた後去る 1 月 27 日の夕方 Cherburg 港から獨逸汽船會社の Bremen 號に乗船して一路 Nov-Jorko 港に向つた。

世界旅行と聞けば目新しい異國の風物に接し、世界に名高い名所を見物し、異人種間の宗教、風俗習慣、言語に驚異の眼を見張る等その快たるや筆舌のよく盡す所ではあるまいと思われるけれども、富豪の漫遊ならばいざ知らず、宣傳と研究の要務を一身に帶びて一定の日程の下に四六時中緊張し切つて居なくてはならないところの此の種の旅行者の苦心は實に思ふべきものがある。

家郷の慈母の膝下を離れて十有七箇月、途上にある事 1000 時間、300 の異りたる汽車に乗り、65 夜を異りたる洋上に明し、殆んど毎夜を異りたる寢床や長椅子で眠り、40 箇國で 150 箇所を訪問し、約 475 日に互り 35 回 (内 21 回はラジオ放送) の講演を行い、500 頁の記事文と略それと同量の内報や手紙を書き、寸暇を偷んで飛行機を利用して日程外の講演にまで出向いたことさえあつたと云う。

全く精力絶倫と云うの外はない。

同氏宣傳旅行の效果に就きては實に著しいものがある。或は講演に或はマイクを通してエスペラントの意義と其の實用價値の實物標本を幾十萬の人に見せつけたではないか。

1000 餘の新聞雑誌をしてエスペラントの宣傳記事を掲載せしめ、講演に關して報道せしめたではないか。斯て多方面多種類の公共團體、協會、編輯局、新聞記者等が直接又は間接にエスペラントに關與したのであつた。4 箇國の同志達は如何に同氏に依りて宣傳の助力を受け、爽なる神興を吹き込まれ、新しい勇氣を注がれた事であつたらう。

全く大なる收穫を得たのであつた。而も此の大成功は世界空前の大不景氣の最中に勝ち得られた事を牢記しなくてはならない。

實に吾人 Scherer 氏の勞を多としなければならぬ。今や同氏は Los Angeles で旅装を解き舊職に復して居る。長旅の疲勞を休める閑もなく世界周遊記を纏めて近く出版すべく整理中との事である。



Radio disaŭdigas Esperanton

— J — O — H — K —

〔仙臺〕 3月1日より3日まで(毎夕17時半より18時)仙臺放送局わ次の如きエス講座を放送。尙同講座わ秋田放送局が中繼した。

第一講 國際語問題とエス語の必要

醫學士 吉田松一氏

第二講 國際語の歴史とエス語

理學士 鈴木博氏

第三講 世界に於けるエス語の現状

仙臺エス會總務理學士 中村貴義氏

此の様な組織的な計畫の下にエス運動の各方面にわたつて徹底的な解説が試みられたことわ日本に於てわ始めてである。来る語學講座放送の時期を前にして全國の同志よ、一枚の**はがき**を奮發して各地放送局に投書の雨を降らせ、エス語講座開設の緒となる様猛運動を起せ。輿論を徹底せしめよ。一枚の**はがき**と數分の時間を惜しむな!!

尙近く逡信省わ全國的なラジオ聴取者に調査表を配布すると云うが此の機を逸せずエスペラント講座希望の旨を書き込まれたら必ずや效果あらん。全國の同志よ 忘れずに此の好機を利用せよ。エス運動の興廢此の一票にあり



獨逸同志來訪

〔東京〕 月12日、何の前觸れもなく突然舞込んだ radiogramo — Alvenos Jokohama marde sendu amikon Karl Maier. 何國の誰で何の目的の來朝か一切不明。併し、同

★締切わ毎月十五日。★報道わ廿字詰原稿用紙日本語にて横書き廿行以内。★封筒にわ内地報道と明記の事。★寫眞返送希望の向わ豫め返送料同封の事(なるべく寄贈されたい)★地方會の設立わ學會會員五名以上の支持署名を要す。★「會員の聲」投稿わ二百字以内。

編者 露木清彦

志であることだけわ確かだ。OK とばかり三宅氏が15日早朝横濱まで出迎えに行く。

〔横濱〕 兼て京都の同志から案内のあつた獨逸の同志 Karl Maier 君を3月15日早朝、棧橋で迎えた。入港に先立ち、福喜多氏わ policano-kamarado 荒川氏の好意で水上署のランチに便乗、未だ沖に假泊中の『銀洋丸』を訪ねた。彼氏わ突然 Japana samideano が眼前に出現した事に餘程驚き、その喜びは大したもの。檢疫に旅券査證にエス語を大いに活用、船員連にもエス語熱を吹き込んだ。綠星旗の下に出迎へた人々わ吉田、新川、水野、富森、笠原、三石、鈴木、東京より三宅氏其他。自動車を連ねて笠原氏の勤め先百貨店越前屋え、小憩後市中見物。晩わ有隣堂で食事を共にした。會する者15名。旅行談を聞き、又時事問題に花を咲かせた。

〔東京〕 16日省線で一路東京へ。三宅、小此木兩氏の案内でお江戸見物。夕方 Esp. の喫茶店訪問、來合せた同志數名と圓タクを連ねて學會の例會に出席した。小坂氏は病氣で缺席せられたが岡本、大橋氏らを初め30名以上の ges-anoj 出席。F-inoj がめずらしく kimono で來たのわ大出来。小此木氏の司會で旅行談が始まつた。實に彼わ職を求めて Esp. の旅をしてゐる男である。若し日本によき職があれば(彼わ齒科技工である)日本に逗留してもよいと言う。これからロシヤえ渡つて歸國(獨逸)するつもりだが、あわよくば其處で就職しようと言う。明日の豫定なく、今日の計畫すらない。また日本人は親切だから心配に餘念がない。17日は小此木、城戸崎氏らが附添つて露國大使館を訪ねたり、市中見物したり、6時より鐵道エス會の招待會に出席、それから數名の同志と再び横濱へ。

〔横濱〕 17日例會に招待。三十餘名出席。

〔東京〕 18日小此木、矢島氏、F-ino 萬澤、S-ino 大橋等と新宿松竹に「上海特急」見物。福岡へ歸郷の城戸崎氏と同道、21時45分發、西部日本見物の旅え。



榊氏渡南米送別會——新潟醫大、北越エス會、前列向つて左より佐藤、武樋、横田教授、榊、久保、林助手、山添、その他。

各地エス會近況

——小樽エス會——

2月16日18時より第九回例會を催した。出席者わ 20 名近く、北國獨特の吹雪の激しい夜、花園町公園クラブ樓上でストーブを囲み、中等——カルロ、初等——短講の研究をした。

——新潟：北越エス會——

毎週金曜日、聖心幼稚園にて「ザメンホフ讀本」の輪講、指導者養成の意味で深く。

——新潟醫大エス會——

3 月末外務省より南米ペルーのリマ大學に派遣された榊氏の爲に市民同志と送別會を催す(寫眞参照)。横田教授、山添、佐藤(兩氏)久保、キノセ氏等の送別の辭、榊氏わ大學エス會の今日の隆盛を基いた人。在外六年間の健闘をのぞむ。紀元節に御結婚の夫人と共に渡米日本人移民の爲によき指導者たれ。

——金澤エス會——

金澤の十年來の同志同田氏及田畑氏わ都合上東京に出發、兩氏の永い間 KEG えの奉仕を感謝する意味で盛大な送別會を催した。一中エス會でも本年度卒業生の送別會を同校で催し、部長西川先生及來賓數名、部員30名の盛大な會合であつた。尙毎月第一第三月曜日の會社會及商工會議所の木曜會にも常に10名以上の同志が參集する。

——敦賀エス會——

3 月 14 日夜辻村氏方で第六回例會開催、會するもの 8 名、espero の合唱に始まり大和田ひな子氏の sinceraj salutoj を傳え、次いで外

國よりの通信文の紹介、tablo-parolado にて氣焔をあげ、tagigo により閉會、有志の會旗及 diskoj の寄贈ありやうやく陣容が容つた。

★ Kursoj ★

★長野松代—2・22—29 (毎夜 19 時より 21 時) 松代小學校、講師栗林亨氏、31 名受講。

★名古屋 YMCA—4・1—10 (毎夜 19—21) YMCA ホール、講師三輪義明氏。

★新潟市善通寺—3・7—4・25 (毎週月：木)。

——地方會——

★金澤エス會及北陸エス聯盟

金澤市新堅町 III—81 坪田方え移轉

[金澤エス會機關紙「Norda Stelo」を各地方會の會誌と交換したし。]

★名古屋 YMCA エス會 6・3・1 (25)

名古屋市中區南瓦町 YMCA 内

★第九回九州エス大會★

——福岡にて——

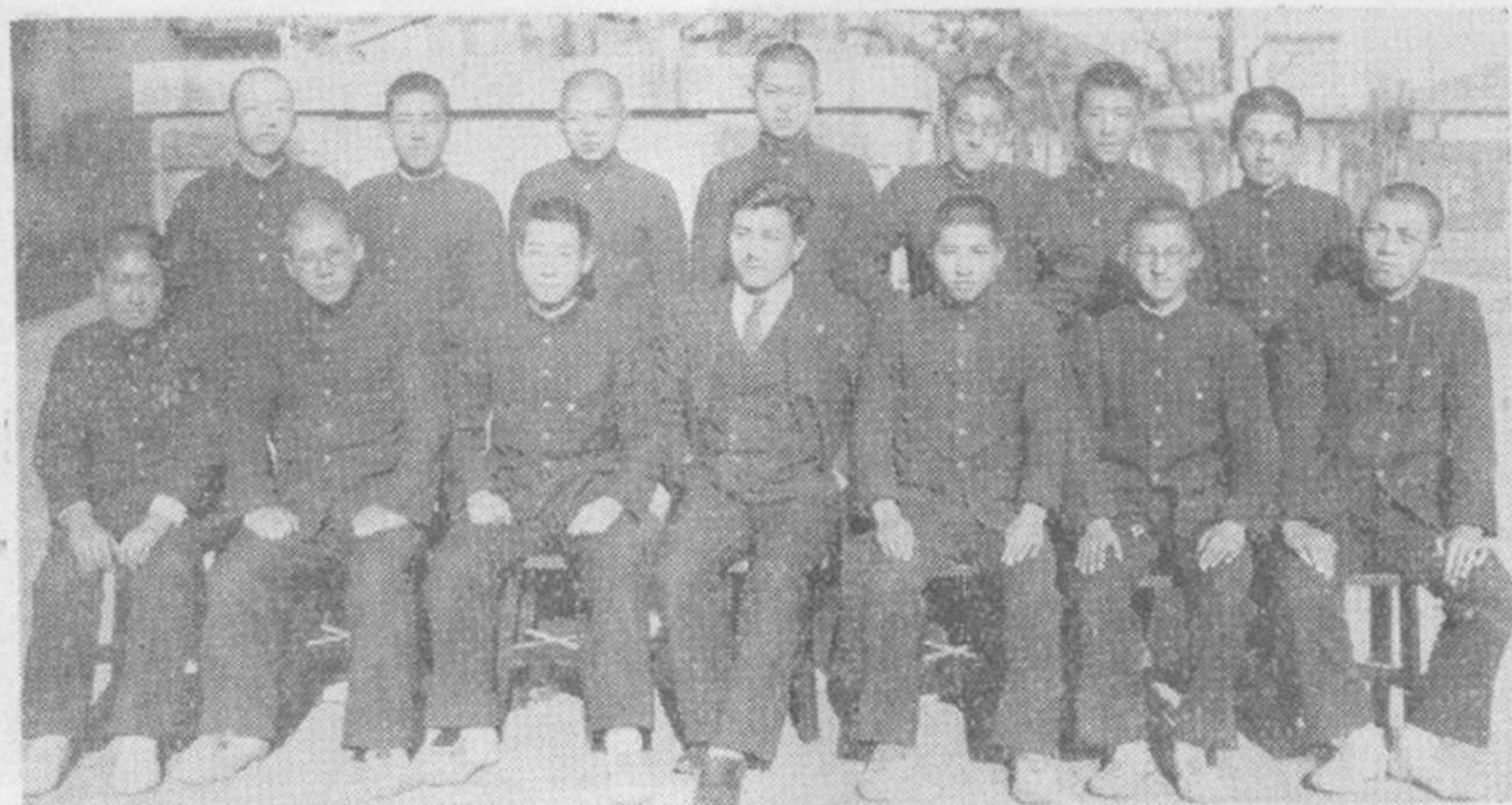
(都合により次の如く期日變更)

四月二十三日(土) 18 時より參加者歡迎會(水上閣)。ラヂオ講演會 (L. K.)

四月二十四日(日) 9 時より市内因幡町、縣教育會館にて大會發會式、協議會。12 時より、晝食、記念撮影、郊外散策。18 時より懇親會(新三浦)。

★ アルヂエンタ・クンシード ★

毎週土曜日 14 時より 18 時まで、但し第二土曜日わ 19 時より。東京銀座明治製菓階上にて、fraŭinoj 大歡迎!!



★ 學生聯盟だより ★

〔横濱商業〕 三月六日卒業生の送別會を行ひ記念寫眞をうつす(上掲)。舊き同志を失ふ悲しみは新しき同志を獲得する契機とならん。京濱方面に於いて唯一の中等學校 ep. grupo である同校の今後の積極的活動が期待せられてゐる。

★素晴らしい紀北實踐女學校の學藝會★

来るべき學藝會で Lonise Bruggs 作の „Cindrulino“ 劇を催すので今から舞臺稽古に忙殺されてゐる。大野雅夫君が非常に、いき込んで、頑張つてゐられる。祈成功!!

★陣容とへのへた早稻田大學エス會★

試験中ズボつてゐた連中も三月十九日の Sodaj Amikoj で勢揃ひして次の如きプランを立てた。

四月中旬、新入生に宣傳の目的で活版ズリのビラを作る件。可決、吉井君草案委託。

五月初旬 Rekta metodo の初等講習をする。

★向上線をたどる日本學生エス聯盟★

仙臺學生エスペラント聯盟結成の上日本學生エス聯盟へ加入のため目下金子氏宅に準備會を置いてゐる。(帝大醫學部、高橋、二高、佐藤、學院、菅原、梅檀中、小島)。

★東京學生エス聯盟の更生第一步★

學生仲間の鬼門である試験も大風一過すれば陽春だ! 十一月に委員會が改正されて以來纏つた仕事も出來ずにゐたが、今年こそ、飛躍的に活動しようと意氣込んでゐる。

その第一步として、目下企畫部より次の如きプランが提出されてゐる。I. 四月三十日(土)夜 Zamenhof 追悼の『夕』を東京に於て催す件。II. 五月初旬より神田(又は新宿)で初等講習を開催する件。III. 常設研究會を定期的に持ち Zamenhof 作の難解なる著作

(例 Rabistoj) を研究し、語の用法とか單語の合成を組織的に究めること。(その結果を R. O. に發表するか又は一冊のものに纏めるかすれば今後の學習者を利する處甚だ大なるものがあらう。) IV. 六月二日の「エスペラントの日」を有意義に利用すべく一般宣傳の講演會を催す案。(これは TEK 及全東京エス團體と協力すべきものと思ふ)。以上の案は企畫部から提出されてゐるので委員會にかけてから決定を見る筈です。

東京學生エス聯盟加入の各校へ

去年十一月に規約が改正され、いよいよ今年度から、一校五十錢宛維持費を納入することになつてゐます。私達は何をするにも、先づ經濟狀態を第一に考へねばならない。學聯も、いよいよ活躍する運びになつてゐるが財政上、何等收入の途がない。たゞ諸君からの維持費と寄附を待つのみだ。維持費を納入された學校も數校あるが、まだ忘れてゐる會もあるらしいから至急納めて頂きたい。

四月二十二日(金)夜七時、學會にて東京學生エス聯盟委員會を開きますから委員諸君は是非出席して下さい。委員長

★今までの學生エス運動が常に、地方エス會の運動に散消してしまつてゐるため独自の運動をちつともしてゐない。これは運動全般から見ると一應正當らしく思はれるが、學生は學生として學内に組織宣傳をなすべき任務がある。他のエス會に學内の組織宣傳をも委せねばならない程、私達學生はサボつてはならない。人には各々與へられた任務がある、何より先き吾々はその第一義的任務から遂行しようではないか!! エス語を學内へ!!

地方會機關紙

★Bulteno de Medicina Esperanta Klubo de Tohoku Imperia Universitato. No. 2. 菊 32 頁。全エス文、新鮮の氣慨漲る。

★Bulteno de Osaka Esperanto-Societo. II-3. 大阪エス會。

★Lumturo 4, 5. 京都鐵道エス會。

★Nova Stelo 22, 23. 大阪新星會。

★Eho 15, 16, 17, 18. 岸和田エス會。

★FER. 13. 東京鐵道エス會。

★聯盟通信 5. 日本鐵道エス聯盟。

★La Aŭroro 4月號 福岡エス會。編輯よろし記事よし印刷よしすべてが洗練されてゐる。

★Verda Amiko 1. 新潟エス會、表紙に寫眞版を入れて立派に見せたまでわよかつたが内容わよた。苦肉の祕法も及ばずか？

★prono 2. 富山エス會、創刊號より一段の冴えあり、が未だあくぬけがしてゐない。

★Sabato IV-4. 横濱エス會。印刷不鮮明。

新聞雜誌とエス語

★英語青年 3月15日號 No. 859 — Basic English と國際語問題 — 石黒修氏

★茨城新聞 13,432號 3月9日 — 滿洲國とその言葉（エス語をその毎日の通常語とすべく大いに輿論を高めろ）

★現代大衆文學全集第 35 卷新進作家集 — 橋本五郎氏作 Letero en la Kaveto とエス語の題名の短篇小説あり（南氏報）

★法苑錄 3 — Skeptiko（エス文）、佛教徒わなぜエス語をもつと愛せぬか……山口竹千代、エスペラント便り — 中野氏

★南洋日々新聞（シンガポール）1月29日 — 自轉車で世界一週、エス語のペレイル君（記事）今朝本社を訪ね旅程を語る — ペレイル君とて廿五歳になる（編者曰くいつまで25か）佛のエスペランチストで自轉車に依り世界旅行の途にある青年が今朝ひよつこり本社を訪れて來た……日本でわ多數のエスペランチストに會い愉快的四週間を過した。日本での歡待わ心魂に徹したらしく繰返し語つてゐた。日本から支那に渡つたがエスペランチストわ日本程居らず更に南下するに隨いエス語の知識を有するものなど少く、興味をもつてゐないことがわかつた。更にバンコックに渡るとエス語を知つてゐる人にわタツター人會つただけである。印度支那から去る土曜日（23日）當市に到着したが同氏わエス語に興味を有つ

て居る人をさがすのに相當困難した。事實氏わ英語を餘り話さないので講演の契約をする事が出來ず、旅費の調達にも苦心してゐるらしい。同氏わ喜んでエス語について講演をしたがつてゐるが、事實そううまくゆかぬらしい。……ペレイル氏わこれからジャワに渡りそれから米大陸に渡りたいと云つてゐるが當地でなかなか寄附金が集まらないので困難してゐるらしかつた。……

★新嘉坡日報 1・30 — エス語普及の自轉車旅行、佛國青年來星 — ペレル氏記事。

會員の聲

★海外名士の聲を聞きたい 開局 apotekisto である我々と同様の外出困難の同志に取つてわ紙上で毎月一回位海外名士の聲を聞きたい。少なくとも來朝の名士の聲位わ……も一つ、卷頭わなるべくエス文で、それから novaĵo と ŝercaĵo も短かいのでよいから三つ四つお願致します。（大阪：今西生）

★地方委員會制定について★

★本誌 73 頁、108 頁參照★

地方委員を選出するにわ同一地方に於ける會員五名以上の推薦によるもの、及び同一地方に於ける R. O. 誌讀者五名以上を同時に紹介した方を本誌に發表しその勞を謝します。（誌代拂込に關してわ昨年本誌 76 頁參照）。地方委員の任務及特典等わ次號にて。

KORESPONDO

★Germano S-ro. P. Kupler; *libristo kaj ĵurnalist*, 25 Flustr. 25, BLESŁAŬ X, Germanujo. dez. kore. pri problemoj de literaturo, politiko, popolvivo kaj vivmaniero.

★Svedo S-ro. Atel Ahlkvist; *korbisto*, Värsjö Svedujo. dez. kore. kun japanoj.

★ Japanujo ★

★S-ro Take ono-H; *Nijunin-maĉi* III-11. KANAZAŬA. dez. kore. kun ge-anoj en Tokio, Ĉiba kaj Kanagaŭa.

★*Kelkaj fraŭlinoj* deziras korespondi kĉl. skribu al Serpento-Rondeto, Ikebkro, Tokio. por sinjoro resp. ne estus certa.

KORESPONDA FAKO

學會々員一回 10 錢、會員以外一回 30 錢掲載雜誌呈。L=letero, P=poŝtkarto, IP=ilustrita poŝtkarto, PM=poŝtmarko, dez.=deziras, kore.=korespondi, interŝ.=interŝanĝi, kol.=kolekti, E=esperantaĵo, G=gazeto, kĉl=kun ĉiu landaj (gesamideanoj).

★ Japanujo ★

★S-ro Oocuka-Ŝooiĉ.roo; ĉe Ono, 67 Ŝin-Demma, Sendai. dez. kore. kĉl.

★S-ro Nakano-Isak; Koo 541, Ŝirohama, Ŝikama-gun, Hjogo-ken. dez. kore. letere pri japanujo rigardata de eksterlandanoj, kaj pri naciaj moroj. nepre resp.

★S-ro Yosii-T.; Takehaya 104, Koisikawa, Tokio. dez. kore. L. interŝ. IP. G. E. kĉl.

★S-ro T. Jamaguĉi; Hatajama-mura, Aiĉi-gun, Aiĉi-ken. dez. kore. L. Kĉl.

★S-ro Umeda-Takeo; Imegasaki, Minami-uoŝima, Niigata-ken. dez. kore. IP. kĉl.

★S-ro Oo-u' Kio; Eirak II-152, Tainan, Formoso. dez. kore. kĉl.

★S-ro Hattori-Toor; ĉe S-ro Miyasaki, Yosida-Sendentyō 45, Kioto; 20-jara studento de fiziko, amanto de alpoj kaj muzikoj. dez. kore. kun ekster eŭropanoj.

Gesamideanoj el tutmondo! mi dez. Kore. kaj ricevi IP. kaj simbolajn (ekz. verda stelo kaj terglobo ktp.), ilustritajn propagandajn esp. afiŝojn, sigelmalkojn kaj esp. insignojn. Sendu nur rekomendite kaj multenombre. Rekompence mi sendadas diversajn ilustritajn sovetajn gazetojn. S-ro Petro Surĵanenکو. VALKI, Ĥarkovska Okrug, Ukrainio. USSR.

★ Gazetara Servo ★

Mi aranĝis sub aŭspicioj sukcespromesajn gazetaran servon, kiu devas prezenti al la gazetoj manuskriptojn ricevitajn per Esperanto el la tuta mondo, ekŝepte el Germanujo, kaj mi petas la samideanojn pri kunlaboro. Bonvolu sendi al mi el negermanaj landoj (en Esperanto aŭ germana lingvo) memverkitajn laborojn aŭ tradukaĵojn de

gazetŝiĝoj kaj raportojn pri strangaj okazintaĵoj, bonhumoraj aferoj, gravaj problemoj, interesaj travivaĵoj, pri lando kaj popolo, moroj, kutimoj ktp. ... Noveloj, skizoj aŭ alia spirita propraĵo povas esti uzata nur post la publikigpermeso de la verkistoj... Ankaŭ interparoloj kun famaj personoj (intervjuoj) de la politiko, komerco, arto, scienco ktp. aŭ ellaboraĵoj de ili estas bonvenaj por mia gazetservo. Por uzeblaj manuskriptoj mi pagas honorarion, kaj vi povos samtempe gajni monon kaj helpi al granda grava entrepreno, kiu per via kunlaboro evoluigos pli kaj pli, kaj iam fariĝas ankaŭ profita. Do, sendu multajn manuskriptojn al

F. W. Mischke, redaktoro,
Radeberg. SA.
Germanujo

★ FOIREJO ★

會員一回三行 30 錢 ★ 會員以外一回三行 1 圓

SPRONO No. 2 富山市中千石町石黒齒科醫院内富山エス會發行。一部10錢、但創刊號なし。

求古本 Baghy: — Viktimoj. Kabe: — Vortaro.

大阪市外守口町 692. 壇辻 浩

Internaciisto 昨年の 10 月より、お譲り下さる方又わお貸し下さる方わ御一報を。

al S-ro J. Kaŭakiŝi; Inami-maĉi, Tojama-ken.

印刷の註文で學園を支持せよ! エス和文共最低價: 雜誌菊廿頁百部十圓より。封筒五千枚四圓等。 紀州長島 生産學園

國際寫眞展作品募集 来る 5 月 14-16 日開催の Jugoslavujo 第 4 回 E.p. 大會に附隨し大規模な國際寫眞展開催に就き、貴國の風景、風俗、習慣 ktp. ktp. の寫眞を寄せられたし。Profesi, amatora いづれも歡迎。ユーゴスラビアの寫眞又は御希望のものと交換。なほなるべく、送附者の寫眞添附のこと。

宛先: S-ro Vilim Buk, Slav. Brod, Jugoslavujo.

エスペラント初等讀物

小野田幸雄

Printempo

En unu jaro estas kvar sezonoj; ili estas la printempo, la somero, la aŭtuno, la vintro.

La printempo komenciĝas en marto, la somero en junio, la aŭtuno en septembro kaj la vintro en decembro.

En la komenco de la printempo la tago estas tiel longa kiel la nokto. Poste la tagoj fariĝas iom post iom pli longaj kaj la noktoj pli mallongaj, tial ke la suno leviĝas pli frue kaj subiras pli malfrue; ĝiaj radioj ekvarmigas la teron kaj vekas la naturon; baldaŭ la arboj kovriĝas per folioj novaj kaj floroj, kaj la herbejoj kaj kampoj reverdiĝas. La birdoj konstruas siajn nestojn kaj kantas siajn gajajn kantojn.

〔解説〕 今こそうづき春半ば、宇宙の森羅萬象は此處に其の長き眠りを覺め出で、營々乎として己が營みを始めたり。友よいざ、我等も劣らず此の春の ritmo の波に聲合はせ、緑のふみを讀まん哉。

sezono は英語の方からシーズンとして日本語化してゐるから直ちに解る。次に punktokomo を置いて ili estas la printempo, 云々とある事からして ili は kvar sezonoj を指し、此の文は kvar sezonoj の中身を説明してゐるのであると解る。春、夏、秋、冬に la の付いてゐるのは、「春と云ふ季節」「夏と云ふ季

節」即ち sezono printempo, sezono 等と云ふ氣持を考へてよい。

次の文にゆくと La printempo komenciĝas en marto はよいが、la somero の次には動詞が無く、いきなり en junio と出て來るので一寸考へさせられる。然るに此れだけかと後を見るに豈圖らんや la aŭtuno, la vintro の次にも動詞は見出せぬ。其處で例の省略の手だなと氣が付く。即ち

{ La printempo komenciĝas en marto,
la somero komenciĝas en septembro
kaj
la vintro komenciĝas en decembro.

次に進む。先づ En la komenco とある。此の前置詞 en は場所、年月日、範圍等種々の場合に用ひられるが、要するに其の精神とする處は「或る輪廓内」と云ふ事である。従て意味上一つの輪廓を形成しない様な場合には用ひられない。こんな事は餘りにも解りきつた事の様ではあるが、此の解りきつた事が屢々誤りの一つになるから面黒い。此の文では「春の始めは」即ち春の季節の始めの日は幾日かあるが、其の幾日かの中、の意であるが「開會の初めに當りまして……」等と云ふ時は輪廓を形成しないから en ではないけない。斯様な場合は ĉe を用ひて

Ĉe la komenco de l' malfermo de la kunveno...

の如く云ふ。他の例。

La virino staras ĉe la tria kolono en la banko. (其の女は銀行の中の三番目の柱の處に立つてゐる。)

さて次は tiel だ。それ程長い、と云ふから當然どれ程？と云ふ事になる。其れが kiel. 又 tago には二つの意味がある。一つは二十四時間の事。他の一つは太陽が東に昇つて西に沈む迄、即ち所謂晝間。此處では無論後者の意である。

次に進むといきなり poste とあり、la tagoj fariĝas と續いて iom と出る。そこで一字一字順々に讀んでゆくと fariĝas iom と續けたくなる、が然し左様な邪念を起さずに心を虚しうして原文に従ひ見もてゆく、と post iom とある事からして iom post iom の副詞句と云ふ事に氣が付く筈。もつとも此の句に未だ一度も出會つた事の無い人には可成無理ではあるが。次の longaj は fariĝas に掛る。kaj を置いて la noktoj pli mallongaj とある事に注意すれば此の文も亦 la noktoj fariĝas iom post iom pli mallongaj の略である事が解る。次に tial ke とある事からして ke 以下は poste から mallongaj 迄の理由を述べてゐるのだと考へる。而して此の ke が何處迄掛かるかを注意する。其の心組みで讀んでゆくと形式の上からは「;」で切れ、又意味の上からも此處で一段落付くので解決が就く。次の ĝiaj radioj は勿論 radioj de la suno の事。ekvarmigas は ek + varm + ig + as で、此の ek は此處では、今迄寒い冷い雪や氷に鎖されてゐた大地が春の日の恵をあびて急にぽかぽかと暖かになると云ふ様な氣分。

袖ひちてむすびし水のこほれるを春た
つけふの風やとくらん

谷風にとくる氷のひまごとにうちいづ
る浪や春のはつ花

等の歌に此の ke の感じは見出される。

次の文は komo で二つに分ければ

Baldaŭ la arboj {folioj novaj
kovriĝas per {kaj
floroj,
kaj
{la herbejoj
{kaj
kampoj } reverdiĝas.

reverdiĝi = re + verd + iĝ + i

siajn の si は何れも birdoj の事。

此れで一わたり説明を終つたが、此の一文を通じての最もあらはな特徴は、接尾字 iĝ を持つた字の多い事である。曰く、komenciĝi, foriĝi, leviĝi, kovriĝi, reverdiĝi. 此の中 reverdiĝi は別として、他の、動詞に iĝ の付いた字に於ては其等の動詞が皆、「始める」「爲す」「昇す」「覆ふ」の如く他動詞である事に注意されよ。

【譯】一年には四つの季節がある。曰く、春夏、秋、冬。

春は三月に始まり、夏は六月に始まり、秋は九月に、冬は十二月に始まる。

春の始めには晝は夜と同じ長さである。が後には晝は段々長くなり、夜は段々短くなる、と云ふのは太陽がより早く昇りより遅く落ちるからである。そして日の光りは大地を暖め自然を目覺ます。やがて木々は新たな葉と花とに覆はれ、草原や田畠は再び緑に復る。鳥は己が巢を營み己が愉快な歌を歌ふ。

前 號 重 要 正 誤

頁 欄 行	誤	正
83 左 -18	kiu estas farita	kiuj estas faritaj
87 左 13, 18	propozitio	propozicio
" 右 "	parolita	parolitaj
" " -8	57/17	47/17
102 1	ĉi	ŝi
" -17	ĉirkonstancoj	cirkonstancoj
" -6	pitreskaj	pitoreskaj
103 7	laŭorde l'	laŭorde de l'
117 右 4	一月	一年
" " 10	dudek-oktagojn	dudek-ok tagojn

比較 (I)

—— 初等エス作文の練習 ——

小 此 木 貞 次 郎

エスペラントを學び始めて、比較法を憶えるとづつと作文や會話が自由に便利になる。比較法は日常會話などでも盛に用ゐられる。それで今度此の比較法の形を色々練習してみませう。

先づ比較はその場合から大體三級に分け得る。

1) 原級——他のものと比較せずに性質や數量を表はす場合。

Leono estas forta. (獅子は強い)。

2) 比較級——二者の中の一が他よりも一層大なる度合を有するを表はす場合。

Leono estas pli forta ol tigro. (獅子は虎よりも強い)。

3) 最上級——三つ以上のものゝ中最大の度合を有するを表はす場合。

Leono estas la plej forta el ĉiuj bestoj. (獅子は獸物中一番強い)。

尙此の他同等比較 tiel ... kiel, sama ... kia 等の形をとるものも擧げ得る。

Taro estas tiel diligenta, kiel Ĵiro. 以上の中(1)は普通の形であるから除き其他に就いて練習する。

1) 富士山は高い。然し新高山は富士山よりも尙高い。

富士山は Monto Fuji と書くのが普通である。簡単に書かうとする場合には英語の如く Mt. と省略 (Monto と讀む) してもよい。地圖の上などでは Mt. と普通かく。同様に利根川は Rivero Tone. 或は R. Tone.

Monto Fuji estas alta. Sed Monto Niitaka estas pli alta, ol Monto Fuji.

ol の前にザメンホフは ekzercaro で komo を打つてゐる。然しなくても間違とは云へぬ種類のものである。

2) 紙は非常に白いが、雪はもつと白い。

La papero estas tre blanka, sed la neĝo estas pli blanka.

これは(1)番の問題のやゝ變形で ol を省いてもその比較が分る場合である。之は勿論 ol la papero が省略してあると考へてもよい。

3) 私は君より新鮮なパンを持つてゐる。

Mi havas pli freŝan panon, ol vi. 之は形容詞ばかりでなく名詞が加つた場合である。

4) 昨日の課は今日の課よりもつとやさしかつた。明日のには今日のよりもつと難しい問題がある。

昨日の課 hieraŭaj lecionoj. もつと難しいは pli malfacila とも書けるがこゝに接頭字 mal- を用ゐた malpli といふ語を使ふことが出来る, malpli に相當する語は日本語には一寸ない。英獨の less, weniger にあたるもので、英、獨、佛皆之をもつてをり、非常に便利な云ひ廻し方である。日本人が之を巧く使ひこなすには大いに練習を要する。

La hieraŭaj lecionoj estis pli facilaj

ol la hodiaŭaj. Morgaŭ mi havos malpli facilajn problemojn, ol hodiaŭ.

5) 君は地理と歴史とどちらが好きですか。私は、地理より歴史が好きです。

地理 la geografio, 歴史 la historio.

Kiun vi pli ŝatas, la geografion aŭ la historion?

Mi ŝatas la historion pli ol (mi ŝatas) la geografion.

(mi ŝatas) は省略するのが普通。pli ol はかういふ場合には一般に離さずに用ゐられる。

6) 私は弟を妹より愛してゐる。

弟 frato; 妹 fratino 是は二つの意味にとれる。

1) 「私は弟の方を妹の方よりも餘計に愛してゐる」。2) 「私は妹が弟を愛してゐる以上に弟を愛してゐる」。

日本語では上のやうに一寸まぎらはしいがエスペラントでは pli ol の次にくる名詞の主格か目的格かによつて簡単に區別がつく。

1) Mi amas mian fraton pli ol (mi amas) mian fratinnon.

2) Mi amas mian fraton pli ol mia fratino (amas lin).

括弧の中は勿論省いてよい。

7) 彼は彼女よりも働かない。

働かない esti maldiligenta, malpli diligenta 或は esti の代りに laboras maldiligente, malpli diligente.

Li laboras malpli diligente, ol ŝi.

8) 最近 A 君は前よりもづつと上手にエスペラントを書く。

上手に lerte, bone, 以前 antaŭe, 之が最近 lastatempe と比較されるので, Lastatempe S-ro A skribas esperanton pli lerte, ol antaŭe.

9) 樹高ければ風強し。

諺にあるもので、～ならば——である。の形式は **ju pli ~ des pli** — なることは御承知でせう。

Ju pli alta la arbo (estas), des pli forta (estas) la vento.

括弧の中は諺などでは省略してもよい。

10) 船は遠方に行けば行く程小さく見える。

船 la ŝipo, 遠方に行く malproksimiĝas, malpli proksimen iras, 見える vidiĝas, aspektas.

Ju pli malproksimiĝas la ŝipo, des pli ĝi aspektas malgranda.

之は Ju malpli la ŝipo proksimiĝas, des malpli aspektas granda. と書けるが、餘りピンと來ない。

以上で (2) 比較級の普通の形は大體練習した。勿論 pli の單獨用法とか, malsama ol 等の形式もあるが、これはやゝ程度が高いから省く。今回は練習問題も掲げなかつた。次回も引續き比較法 (komparativo) の練習をやり、(最上級及び tiel... kiel 等の形式) その後全體を通じて練習問題を提出して見たいと思ひます。

發音の指南

小坂 狷 二

(4) T と D と (續き)

T, D はその舌の使ひ方に於て N と全く同じである (T は清音, D はその濁音, N はその鼻音)。依て ti の練習にかゝる前に先づ ni をくりかへして發音し、その場合に於ける舌と口の動き具合を考察せよ：前號に述べた t の場合と同じく先づ舌の先が齒莖の根元 (口蓋) につき發聲と同時に i の口形、即ち口角を左右に引いて口を横に狭めた形にして發音される。Ti も ni と全く同じ要領で先づ舌端を上へくつつけ、t の音を發すると同瞬間に手ばやく口を i の口形、即ち口角を左右に引いて口を狭め發聲せよ：いー。但し此の時『t』と『い』とが『遠い』の如く別々になつて聞こえてはならぬ、兩者は同時に、渾然一音をなす如く t を發すると瞬間に i の口形を作つて發聲すること。尙ほ口蓋につく舌端の部分があまり先端すぎると ci の音となり、内方すぎると ç i の音となる、よく注意して區別せよ。練習 (1) t, i; ni, ti, ci, ç i. (2) tigre, timo, cimo, tinti, senti, batilo, tipo; nia, tia, cia, ç ia.

Di は ti の濁音であるから全く ti と同要領で練習せよ：いー。此の場合舌の少し内方がさわると ç の音になる故よく注意 (ç に就ては後述)。練習 (1) d, i, ni, ti, di. (2) dika, diplomo, fandi, hodiaŭ, mendi, diri, ridi, disdividi.

Tu は先づ nu で舌と口形との準備練

習し、tu の練習に移る：前同様舌端を口蓋の根につけ、t を發する瞬間に手早く u の口形、即ち口を丸く小さくすぼめて發聲：うー。此の時も t と『う』とが別々になつて『問ふ』の如く聞こえぬ様又舌の位置に留意して cu や ç u と混同せぬ様。Du は tu の濁音であるから同要領：うー。練習 (1) t, u, nu, tu; d, u, nu, du; tu, cu, ç u, tu. (2) tute, dum, tuko, duko, veturi, traduki, turni, metu, sendu, tubo, dubo.

(5) Ĉ と Ŝ

Ĉ は日本の『ち₊』行の音：ĉa 茶, ĉe 『ち₊すと!』, の『ち₊』, ĉi 『小さい』の『ち』, ĉo 『丁度』の丁, ĉu 『中』。この音は舌の t の時よりももつと奥を口蓋 (上顎) につけて置き、之を呼氣で突破して發する破裂音。日本人にも出来る音であるが、たゞ音が二つに聞こえぬよう。例へば ĉe が『知恵』の如く『ち』と『え』が別々にならぬよう、えー (=ち₊ー)が一音たるやう發音せねばならぬ。

Ŝ は破裂音 Ĉ に對應する摩擦音、舌を平に口蓋 (上顎) に押しつけ呼氣で突破すれば ç であるが、舌の此の部分を口蓋にふれしめず、極めて少しく間隔を置いてその隙間を呼氣がすりぬけて出るシュー シュー 云ふ様な音が ŝ である。日本語のシ₊行音、例へば『し₊』はむしろ s と ja との結合音 sja である。ŝa は上記の舌姿で『シ₊』よりももつとかすれた音である。

諺 の 研 究

Lernu juna—vi scios maljuna.

若い時學べさうすれば老年の頃物識

りて居られる (少年老易學難成)

此の juna, maljuna は主語を形容する補足語である, 例へば: (Vi) lernu juna に於て lerni し方が若々しい意ではなく(即ち lerni なる動詞を形容するのではなく) vi が若い意故形容詞形 juna を用ひる: (Vi) lernu, estante (= kiam vi estas) juna の意。類例

Ŝi ploris sola. ひとりで泣いてゐた (ŝi が sola),

Li tuta tremis. 全身ガタガタふるへてゐた (Li が tuta).

比較: Li tute tremis. すつかりふるへ込んでゐた (tremi し方が tute).

Mi legis la unua. 私が眞つ先に讀んだ (私が unua).

比較: Mi unue legis, due skribis. 先づ讀み次に書いた(動作の順序)。
なほ本例と同意味の諺。

Se Peĉjo ne semos, Petro ne rikoltos.

若し幼年時代に種播かざれば成年に至つて收穫し得ず。

Peĉjo は Petro の幼名『ペエちゃん』; semo 種子, semi たねをまく; rikolto 收穫。

Kiu ne estis kaporalo, ne estos generalo.

伍長でなかつた者は(一足とびに)大將となることなし。

Post sufero venas prospero.

雨降つて地固まる

苦しみの後に繁榮が来る。Suferi 苦痛を身に受け, なやみ苦しむ(發音: u をはツきり發音せよ: すーふゑーろ; を短くしてゑふゑーろと發音するな); prosperi 萬事首尾よく行つて榮える。

Kia ago, tia pago.

自業自得

Kia estas ago, tia estas pago の略。その行爲があるが如きその様なものでその酬いはあるであらう, 即ち行ひよければ酬いもよく, 行ひわるければ, それと同じく酬いもわるい意。Agi 行動をする。行ふ; pago 支拂ひ, (茲ではその行ひに對する支拂ひたる) 酬い。なほ諺には本例の如く estas を省略したもの多し。類例

Kia patro, tia filo.

親が親なら子も子, 此の親にして此の子あり。

Kia sono, tia resono.

反響はその響の如し(その響がある如きその様なもので反響 re'sono はある)。

Kia la semo, tia la rikolto.

種子に應じて收穫もかはる。

En trankvila vetero ĉiu remas sen danĝero.

風(靜かな天氣)には誰でも安全に(危険なしに)漕ぐ

平穩な運の下では物事がわけなくやれるのは當然の意。

新★刊★二★種

小坂 狷二 譯註 Fabloj de Ezopo

イソップ物語

1931 年の La Revuo Orienta 及び「初等エスペラント」に連載して熱烈な歓迎を受けたものに、新しく書きおろした數十篇を加へて 65 篇。最も信頼すべき模範的エス譯は斷じて類書の追隨を許さない。又親切にして明快なる脚註が附してあるから、中等講習會の教材としては勿論、副讀本としても、又獨習用や輪講會の研究用書としても好適である。

装幀 洒 • 四六判 70 頁 • 定價 30 錢 • 送料 2 錢

下村 芳司 著

新撰エス文手紙の書方

海外同志との文通はどんな風に申込みばよい、招待状はどう書くか、無沙汰お詫びは？ 旅の便りは？ お悔みは？ 等、等、あらゆるばあひのエス手紙の書方が、多数の實例をあげて示してある。それも從來の無味乾燥な講義振りとは異り、やさしい對話體で書いてあるから、興味の中に知らず識らず手紙の文に熟達できると請合ひである。封筒の書方も實物寫眞版入りで示してあり、詳細な索引兼用の目次が附けてあるから、正に書翰百科辭典の觀がある。

装幀 優美 • 四六判 370 頁 • 價 1 圓 20 錢 • 送料 8 錢

近・刊・二・種

★ 綠

葉集 (伊井 迂 著)

萬葉集、古今集等の和歌、芭蕉その他の俳句のエス譯、原作詩等。

★ 中

村 精男 博士 遺稿

エス文による、先生の理學及び文學作品を多数あつめたもの。

東京市牛込區
新小川町 3 の 15

財團
法人

日本エスペラント學會

電話 牛込 (34) 5415 番
振替 東京 11325 番

定價五十錢
送料六錢

★日本エスぺラント學事始

伊井迂氏談論集

諸君は日本へエスペラントがやつて來た當時のことを知つてゐるか。其の頃のやうな人物が居つてこの言語の普及に努力し情熱を注いでゐたかを知つてゐるか。又どんな奇人が居て奇行珍談を残しどんなグループがあつたかを知つてゐるか。日本のエスペラント運動が今までに經て來た歴史は又日本の立派な文明史の一部をなすものだ。ここに現れた伊井迂氏の書物は彼がその物凄い記憶力と恐るべき熱情と正しい認識とをもつてエスペラント及び日本のエス語運動に對する蘊蓄と記憶とを傾けて語り出したものだ。これはエスペランチストは勿論一般の人にも絶大な興味のあるものに違いない。これを編んだ人についても又適所適材と言ふ平凡な語をもつて語りこの平凡ならぬ書の實物を見て貰ふことによつて推賛を頂戴し度いと思ふ。諸君の是非座右に一本をとり給へ！

目次——▲蛙と鼠の大合戦▲秋田雨雀先生▲エスペラント原作文學▲互譯文學について▲あまりに勇敢な醫者を怖れよ▲醫者とエスペラント▲言語崇拜の三つの型とその克服▲惜字爐▲エスペラント學序說▲日本エスペラント學事始▲イエツプとアチユーロイ▲アーマ・アフエーロ▲單語科學的一二の問題▲エスペラントと學生▲エスペラントと子供▲受験地獄

ポエウ教育部編

四六上製
二六〇頁
定價五十錢
送料八錢

★エスプラント日記

◇エスペランティストの必携手帳、出来!!

内容概要 ◇記入欄、横線、約二百頁。◇マルクス、レーニン等の言葉及諺（エス文にて記入欄の上に挿入）。◇プロレタリア・デー等を示した先つけ日記欄。◇日記のつけ方。◇國際通信の方法。◇エスペラント文法要綱。◇俺達の字引。◇おれたちの歴史、國際日本の二部よりなるエスペラント史社會史對照表◇エス文國際プロレタリア運動史。

中秋
垣田
虎雨
兒雀
郎著

四六上製
一七〇頁
定價八十錢
送料六錢

★初等エスペラント講座 (全一冊)

エスペラントの傳播者として、從來の學習書は餘りにも時代遅れだつた。單なる文法文例の羅列や語學教科書の燒直しでは新しい生活感情の表現たるエスペラントを獲得することは不可能だ。新しい生イデオロギーを基調とする、新しい學習書が絶対に必要だ。本書こそはかゝる要求を完全に満してゐる。

伊小
東坂
三狷
郎二
著

四六上製
三四〇頁
定價十二圓
送料二錢

★
エプ
スロ
ベレ
ラタ
ンリ
トア
必
携

この書こそ文字通り大衆の欲求が著者を強制して書かした書だ。東奔西走の闘争裡、十年の歲月と、プロレタリア・エスペランチストとしての最高のイデオロギー、技術を縦横に馳使して出来たのだ。本書は入門書であり同時に極意への指南書だ。又プロレタリア的事物の取扱ひ方の手引だ。取材はソヴェートの文化建設を扱ひ國際的意識の教育に有力な道具を供給する。

高木弘譯
エドレーゼン著

四六判
横組寫眞入
送料六十錢
定價八十錢

★エスぺラント運動史

いづれの方面を見ても國際的問題は我々の死活の問題である。今
 エスぺラントの研究と實用が勃然として盛になつたのはこのためだ
 だが眞實にエスぺラントを正確に有効に使用し得る爲にはエスペラ
 ントの本質を確實に掴まねばならぬ。本質を確實に捉える爲には發
 展の歴史を確實に捉へることが必要だ。今エスぺラント實用の飛躍
 的段階に當面して歴史の評價は何よりも大事だ。直ちに本書を繙い
 て新しい時代の爲に自己を鍛へよ。

「プロ研」エスペラント研究會編著

★
エプ
スロ
ベレ
ラタ
ンリ
トア
講座
(全六卷)

會 員
再 募 集

◆詳細內容見本進呈
◆全六卷 卽時配本

◆分拂 一冊八十錢
送料六錢

◆一時拂 四圓五十錢

財団法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

		價目	送料
エスペラント捷徑	最新最良の獨習書……………	{ 上製 1.00 並製 0.50	4
エスペラント講座	外國語を知らぬ人の獨習講義録……………	0.50	4
新撰エス和辭典	語數一萬五千餘、譯……………	{ 並製 0.60 上製 0.80	2
エスペラント講習用書	語正確、索出至便……………	0.30	2
エスペラント短期講習書	文法教科書と讀本とを兼ね……………	0.20	2
エスペラント初等讀本	大きな活字で要領よく編輯した……………	0.30	2
エスペラント中等讀本	挿繪入程度低く小中學生にも適す……………	0.30	2
ザメンホフ讀本	興味深き讀み物數十篇を収む……………	0.30	2
イソツプ物語	……………全3巻、各巻 0.20 (2) 合巻	0.50	4
エスペラント發音研究	脚註付、講習讀本並に獨習好適……………	0.30	2
點字エスペラント文法・小辭典	エス語發音上の疑問を氷解す……………	0.30	4
エスペラントやさしい讀み物	盲人用獨習書兼字引……………	1.00	6
愛の人ザメンホフ	笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢……………	0.10	2
リングヴィ・レスポンドイ	エス語創案者ザ博士の傳記……………	0.80	6
エスペラントの鍵	ザ博士の言語上の解答を蒐む……………	0.50	4
歐羅巴親類巡り	文法及三千五百語を含む小辭典宣傳用……………	0.05	2
	エス語のみでの世界旅行記……………	{ 上製 0.95 並製 0.85	8

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

|              |                         |      |   |
|--------------|-------------------------|------|---|
| 1. マテオ・ファルコネ | 「カルメン」の作者メリメエの名篇……………   | 0.35 | 2 |
| 2. ハイネ詩集     | 情熱詩人ハイネの詩數十篇……………       | 0.40 | 2 |
| 3. 覺法使       | ザイデルの爐邊物語中の一篇……………      | 0.40 | 2 |
| 4. 代理通譯      | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………    | 0.40 | 2 |
| 5. 愛ある處神あり   | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………    | 0.40 | 2 |
| 6. レイモント短篇集  | 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」…………… | 1.50 | 6 |
|              | 「農民」で有名な波蘭文豪レ氏の短篇……………  | 0.40 | 2 |

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

| | | | | | |
|---------------|------|---|---------------|------|---|
| 骸骨の舞跳…………… | 0.40 | 2 | 惜みなく愛は奪ふ…………… | 0.75 | 4 |
| 倫敦塔…………… | 0.15 | 2 | ベルダ・カルト…………… | 1.00 | 4 |
| グラシヤ…………… | 0.20 | 2 | 綠葉集…………… | 近刊 | |
| 霧の中…………… | 0.15 | 2 | 日本民族の起原…………… | 0.10 | 2 |
| 中村精男博士遺稿…………… | 近刊 | | 日本刀概説…………… | 0.15 | 2 |

| | | | |
|---------------------|---------------------------------|------|-------------|
| エスペラント單語カード | 七百二十語に一々用例を示す…………… | 1.70 | 12 |
| エスペラント文例集 | カードと同一内容の本…………… | 1.00 | 6 |
| エス演說會話レコード | 小坂氏吹込兩面…………… | 1.20 | 40 (内地外 80) |
| Espero, Tagiĝo レコード | 獨唱、兩面…………… | 1.50 | 40 (内地外 80) |
| エスペラント便箋 | 正百枚一冊…………… | 0.20 | 4 |
| エスペラント封緘紙 | 八十枚入一袋…………… | 0.20 | 2 |
| 日本風景風俗エハガキ | 四枚一組三色刷エス説明入…………… | 0.10 | 2 |
| エスペラント手拭 | 三越特製上等…………… | 0.20 | 2 |
| 綠星章 | 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)…………… | 0.30 | - |
| | 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各…………… | 0.50 | 3 |
| | カフスボタン (箱入一組)…………… | 1.20 | 6 |
| | ネクタイピン…………… | 送料共 | 0.30 |
| 綠星旗 | 紙製綠地に白く「エスペラント」と抜く。十枚(郵税共)…………… | 0.15 | - |

La Revuo Orienta—Monata Organo de Japana Esperanto-Instituto.
Ŝin'ogauamaĉi III-15, Uŝigome, TOKIO, Japanujo; abono internacia 7 svig. frankoj.

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 日本エスペラント學會

東京市牛込區新小川町三の十五

—【電話牛込(34) 5415番—振替口座東京11325番】—

- 目的 エスペラントの普及、研究、實用
- 事業
- (a) エスペラントに関する各種の研究調査及其發表
 - (b) 雜誌及圖書の刊行等
 - (c) 講演會、講習會の開催及後援
 - (d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業

尚ほ本會に関する詳細及び本會發刊書並に内外エスペラント圖書目錄は郵券二錢封入御申込み下さい

驚くべき廉價なる初等學習及宣傳用雜誌

初等エスペラント

本誌 La Revuo Orienta の初等向の頁を抜き、卷頭言等を附したものの

毎月五日發行 表紙共每號十六頁

誤らざる學習の指針——懇切なる獨學の伴侶

購讀料 年分僅かに六十錢 半年分三十錢

本誌の弟分たる「初等エスペラント」を愛護して、宣傳しませう

(見本は郵券五錢封入御申込み下さい)

本誌購讀料 (郵税別)

| | | |
|-----|--------|------------------------------|
| 一部 | 圓 0.20 | 圖書目錄及本會の詳細に關しては二錢切手封入申込まれたし。 |
| 半年分 | 圓 1.20 | |
| 一年分 | 圓 2.40 | |

本會振替口座番號 { 一般 { 東京 11325 番
會計用 { 長野 3283 番
基本金專用東京 32089 番

昭和七年三月二十五日印刷

昭和七年四月一日發行

編輯兼發行

大井 學

印刷人

竹田 佐藏
(一區印刷所)

發行所

東京市牛込區新小川町三ノ一五
財團日本エスペラント學會

昭和七年四月一日發行 (毎月一號一日發行)
エスペラント研究雜誌ラ・レヴオ・オリエント
第十三卷第四號

定價貳拾錢 (送料貳錢)